

### Ⅲ. 「潜在助産師・退職助産師の就業意向調査」 結果報告

# 目 次

調査概要	48
I 調査対象者の特性	49
1. 居住地	49
2. 年齢	49
3. 子供の有無、子供の人数・年齢	49
4. 介護している家族の有無	51
II 対象者の生活環境について	52
1. 現在の生活	52
2. 居住エリアでの産科診療所の有無	52
III 保有資格について	53
1. 保有資格	53
2. 免許取得年	53
3. 免許取得のための基礎教育	53
4. 総分娩介助件数	53
IV 職歴について	54
1. 通算経験年数	54
2. 過去の経験業務	54
3. 就業状況	55
4. 離職期間	56
5. 退職前職場施設	56
6. 退職理由	56
7. 他職場での就労経験	57
8. 転職経験	58
V 現就業状況について	59
1. 現在就業中の職場	59
2. 勤務形態	59
3. 勤続年数	59
4. 関与業務	60
5. 現職場選択理由	61
VI 産科診療所のイメージについて	62
VII 期待される助産師の能力	66
VIII 就業の際の条件について	70
1. 産科診療所での就業意向	70
2. 希望する勤務形態	71
3. 希望する勤務日数	71
4. 希望する勤務時間	72
5. 希望勤務体制	72
6. 希望給与	73
7. 希望条件	74
8. 就労希望時期	76
9. 産科診療所での就労阻害要因	77
IX 研修への参加意向について	78
1. 研修参加意向	78
2. 希望する研修内容	78
X 求職活動について	80
1. 就業支援活用意向	80
2. 求職活動手段	80

XI 1年以内の就業希望者の就業条件について .....	81
1. 分娩介助件数、通算経験年数、離職期間、退職前職場施設 .....	81
2. 退職理由 .....	82
3. 希望する勤務形態、勤務日数、勤務時間、勤務体制 .....	82
4. 希望条件 .....	83
5. 研修参加意向と内容 .....	84
6. 求職活動手段 .....	84
■ 調査結果総括 .....	86
1. 調査対象者の背景 .....	86
2. 産科診療所への就業意向に関する実態 .....	86
3. 産科診療所で期待される助産師の能力と必要な研修 .....	87
4. 産科診療所に対するイメージ .....	88
5. 就業支援のあり方 .....	88
● 自由記述 .....	90
1. 労働条件について .....	90
2. 人間関係について .....	90
3. 業務について .....	90
4. 職場環境について .....	91
5. 教育・支援体制について .....	91
6. 求職活動について .....	91
7. 経営者の理念について .....	91
8. その他 .....	92
統計表 .....	93
調査票 .....	112

潜在・退職助産師の就業意向調査ワーキンググループ

委員長	遠藤 俊子	(山梨大学大学院)
	石川 紀子	(愛育病院)
	神谷 直樹	(東京慈恵会医科大学柏病院)
	加藤 尚美	(神奈川県立保健福祉大学)
	串間 秀子	(宮崎県看護協会)
	佐藤 仁	(館出張佐藤病院)
	塚越 典子	(都立広尾病院)
	成田 伸	(自治医科大学)
	山崎 圭子	(横浜市衛生局)
	渡辺 しおり	(堀永産婦人科)
	和田 明美	(浅川産婦人科医院)

## 調査概要

### 1. 調査の目的

現在、就業していない助産師ならびに病院等で看護師として働いている助産師が、診療所で助産師として働く場合、どのような労働条件や職場環境を望んでおり、どういった条件が整えば診療所での就労が可能となるかを明らかにするため、本調査を実施する。

その背景には、新生児の出生場所は病院52%、診療所が46%（平成16年度人口動態調査）となっているものの、実際に助産師が働いている数は病院68%、診療所は18%（平成16年度厚生労働省医政局看護課調べ）と、明らかに診療所における助産師の数が不足している。そのため、一部の産科医療機関においては、助産師不足を背景に看護師による産婦の内診行為等が問題となっている。

平成17年11月24日に公表された厚生労働省の「医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する検討会」では、「助産教育を受けていない看護師の助産業務を認めるのは、国民が求めている安心で安全なお産から逆行する行為」として「内診等については助産業務である」との見解が示された。診療所で働く助産師の数が不足している要因は、助産師が分娩数の少ない病院に偏在し、結果的に看護師として勤務している実態など、助産師として診療所で就業したくても、働ける環境が整備されていないのではないかと懸念がある。

それらの実態を明確にすることも本調査に課せられた課題である。

尚、本調査の結果は厚生労働省の政策ならびに日本看護協会の政策提言等に活用する。

### 2. 調査の設計

#### (1) 調査対象

平成18年1月5日時点でナースセンターコンピュータシステム（以下NCCS）に有効な求職登録をしている助産師ならびに、都道府県看護協会の紹介により調査協力いただいた助産師

#### (2) 調査対象者及び回収状況

配布数：1010件

回収数：500件

回収率：49.5%

#### (3) 調査方法 宅配メール便発送 郵便回収

#### (4) 調査期間 平成18年1月12日～1月31日

#### (5) 調査主催 社団法人 日本看護協会

#### (6) 調査実施・分析機関 株式会社 アクロス

# I 調査対象者の特性

## 1. 居住地

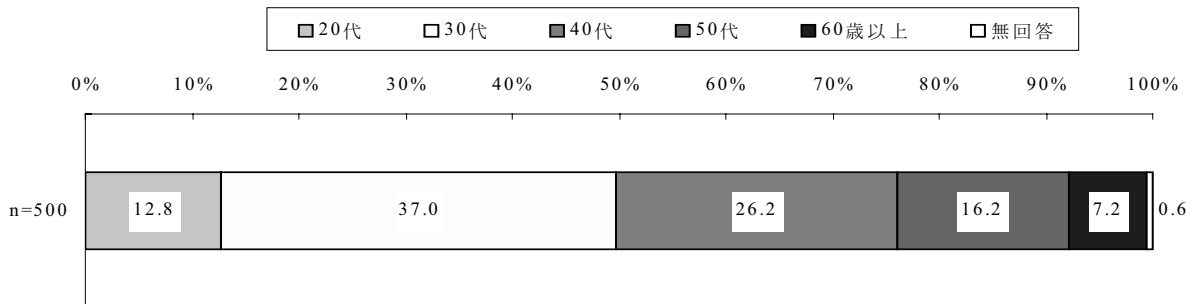
### 問1 居住地

居住地	n	割合 (%)
全体	n=500	100.0
北海道	23	4.6
青森県	13	2.6
岩手県	7	1.4
宮城県	12	2.4
秋田県	4	0.8
山形県	1	0.2
福島県	2	0.4
茨城県	8	1.6
栃木県	9	1.8
群馬県	9	1.8
埼玉県	5	1.0
千葉県	15	3.0
東京都	64	12.8
神奈川県	20	4.0
新潟県	3	0.6
富山県	2	0.4
石川県	1	0.2
福井県	0	0.0
山梨県	4	0.8
長野県	9	1.8
岐阜県	7	1.4
静岡県	8	1.6
愛知県	14	2.8
三重県	7	1.4

滋賀県	6	1.2
京都府	9	1.8
大阪府	16	3.2
兵庫県	16	3.2
奈良県	4	0.8
和歌山県	2	0.4
鳥取県	7	1.4
島根県	2	0.4
岡山県	25	5.0
広島県	11	2.2
山口県	6	1.2
徳島県	3	0.6
香川県	17	3.4
愛媛県	1	0.2
高知県	4	0.8
福岡県	22	4.4
佐賀県	3	0.6
長崎県	7	1.4
熊本県	10	2.0
大分県	23	4.6
宮崎県	22	4.4
鹿児島県	22	4.4
沖縄県	13	2.6
無回答	2	0.4

## 2. 年齢

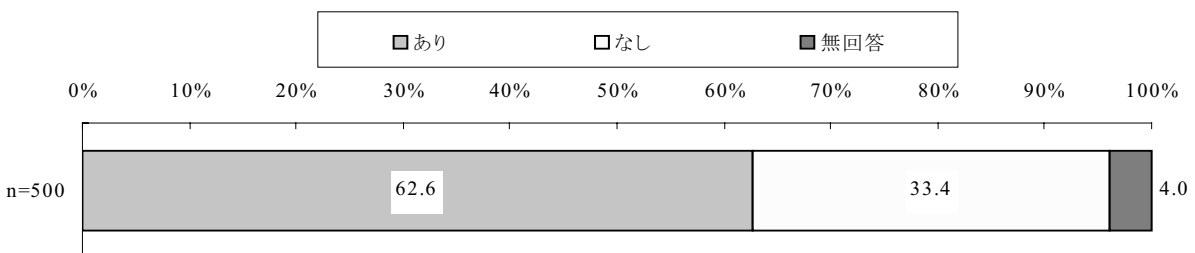
### 問2 年齢



対象者の年齢は、30代が37.0%、40代が26.2%の順で多く、両者で60%強である。

## 3. 子供の有無、子供の人数・年齢

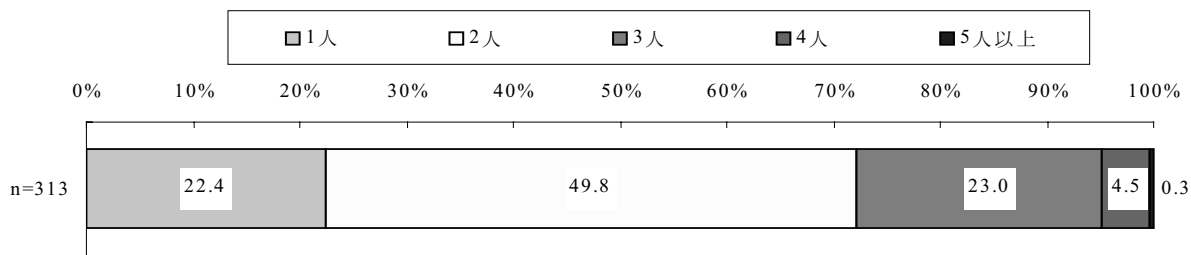
### 問5 子供の有無



6割以上が「子供がいる」と回答している。

### 問5 子どもの人数

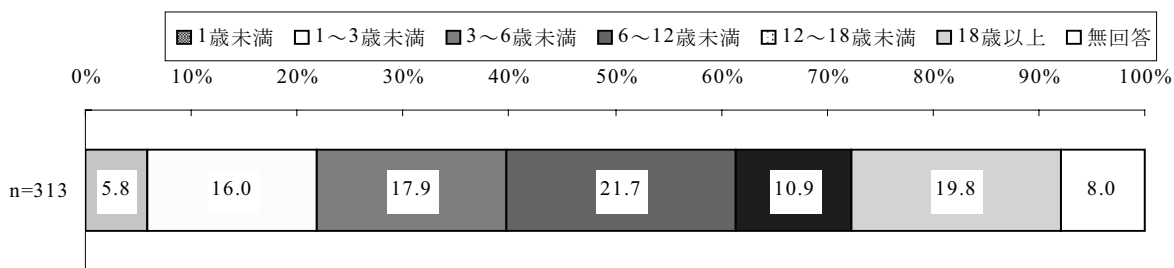
問5 子どもの有無：あり



子供の数は2人が49.8%で最も多く、次いで3人(23.0%)、1人(22.4%)の順である。

### 問5 末子の年齢

問5 子どもの有無：あり

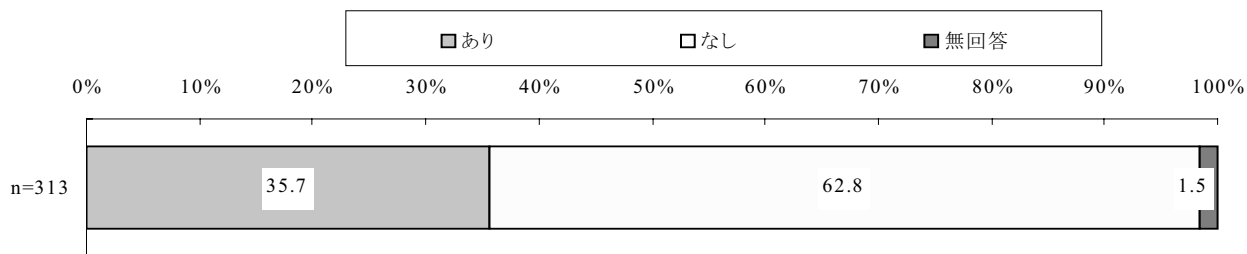


末子の年齢は6～12歳が21.7%と最も多く、次いで18歳以上(19.8%)、3～6歳未満(17.9%)の順である。

### 問5-1 昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等の有無

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：12歳以下

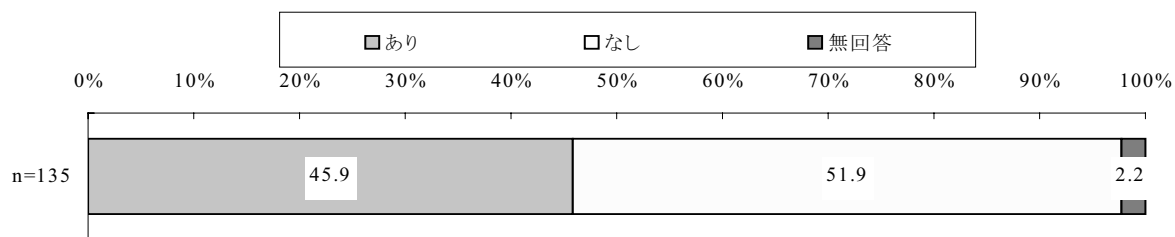


末子の年齢が12歳以下で昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等は62.8%が「なし」と回答している。

### 問5-2 保育所等の利用の有無

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：6歳以下

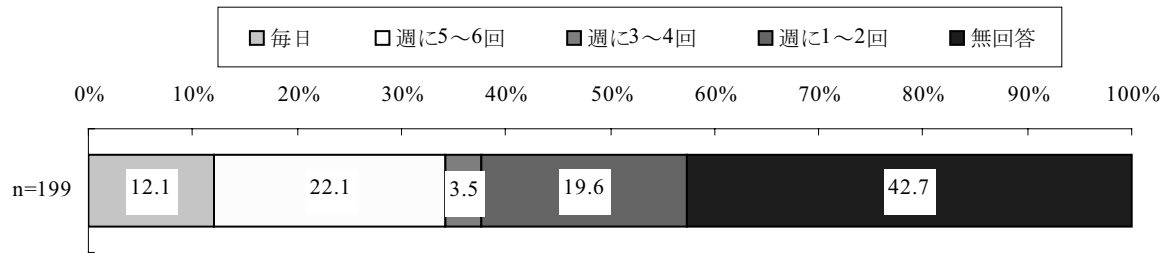


末子の年齢が6歳以下で保育所等の利用は45.9%が「あり」、51.9%が「なし」と回答している。

### 問5-3 子どもの世話をしてもらえる頻度 [日数]

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：12歳以下

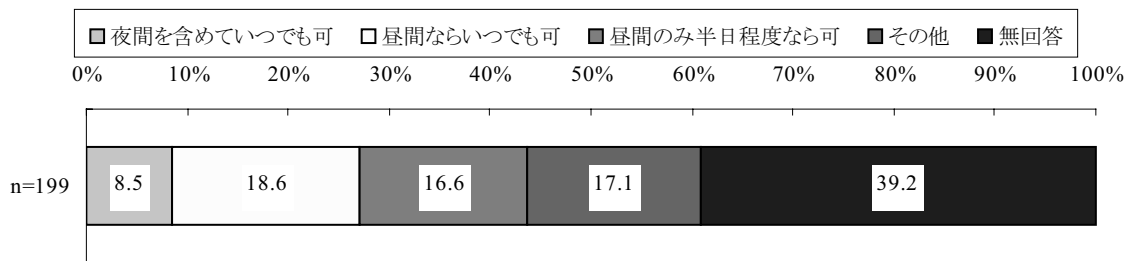


末子の年齢が12歳以下で子供の世話をしてもらえる頻度（日数）は、週に5~6回（22.1%）で最も多く、次いで週に1~2回（19.6%）、毎日（12.1%）の順である。

### 問5-3 子どもの世話をしてもらえる頻度 [時間帯]

問5 子どもの有無：あり

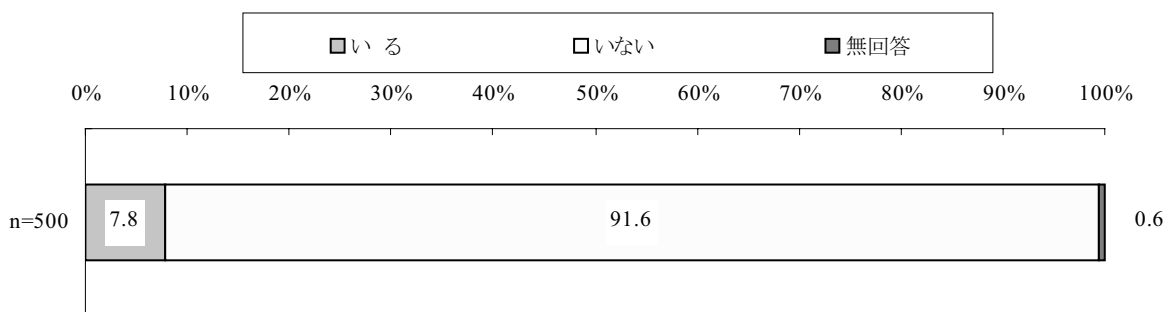
問5 末子の年齢：12歳以下



末子の年齢が12歳以下で子供の世話をしてもらえる頻度（時間帯）は、昼間ならいつでも可（18.6%）が最も多い。

## 4. 介護している家族の有無

問6 あなたが介護している家族はいますか

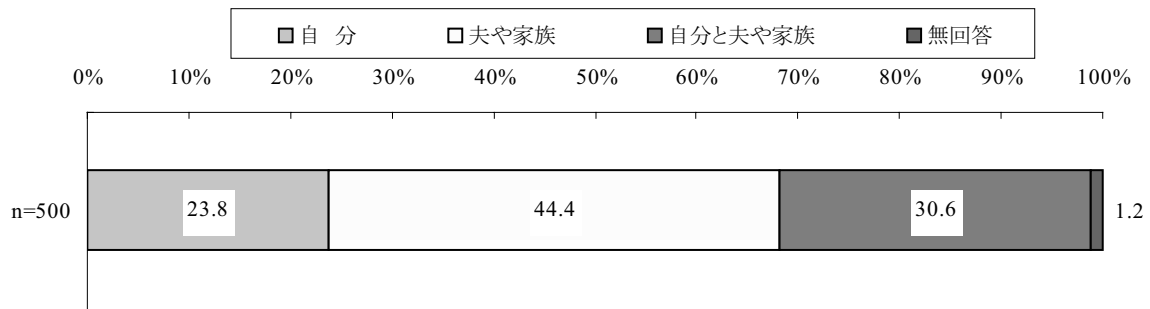


介護をしている家族の有無については、91.6%が「いない」と回答している。

## II 対象者の生活環境について

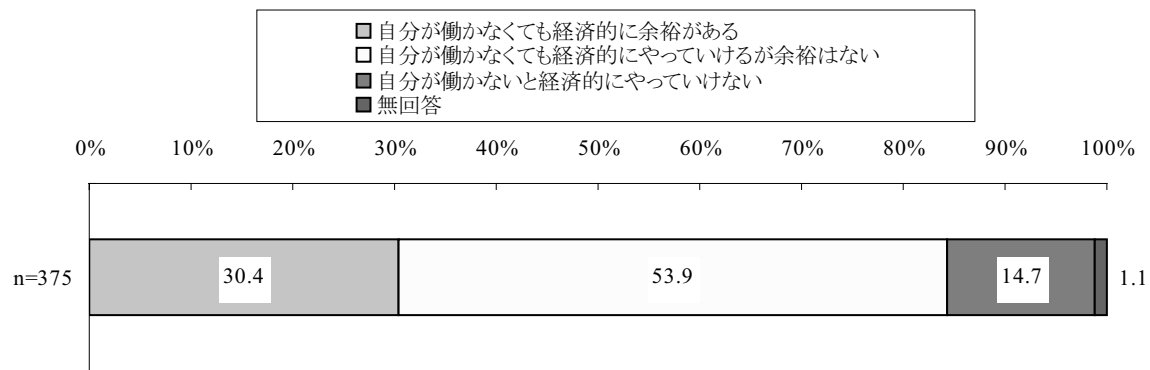
### 1. 現在の生活

問3 現在の生活における収入源は誰ですか



「現在の生活における収入源は誰ですか」の問いに対し、全体では「夫や家族」が44.4%、「自分と夫や家族」が30.6%と回答している。

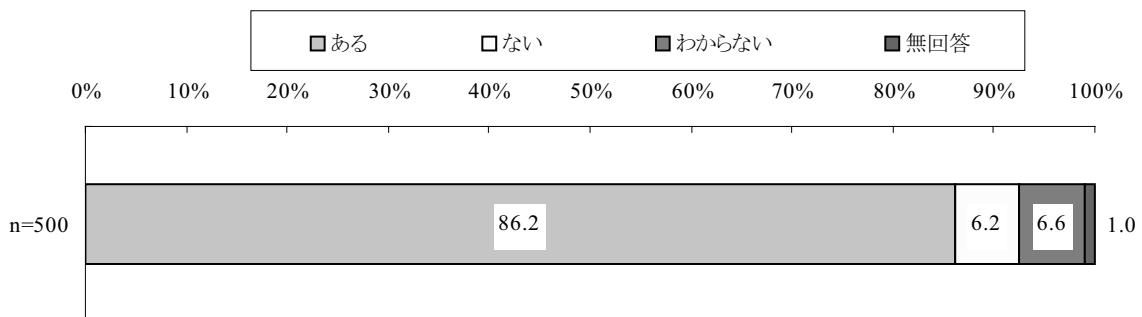
問4 現在の生活状況について



問3の質問で収入源が「自分」と回答していない者のうち、現在の生活状況について、「自分が働かなくても経済的にはやっつけけるが、余裕はない」に53.9%が回答している。

### 2. 居住エリアでの産科診療所の有無

問12 あなたの居住地の近く（車などで30分以内）に分娩を取り扱っている産科診療所はありますか



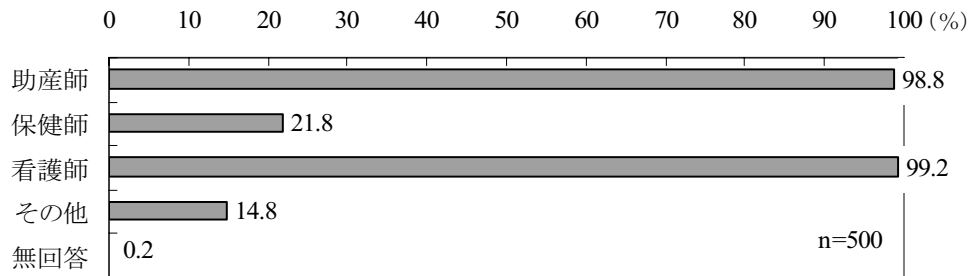
「あなたの居住地の近くに分娩を取り扱っている産科診療所はありますか」の問いに対し、全体の86.2%が「ある」に回答している。



### Ⅲ 保有資格について

#### 1. 保有資格

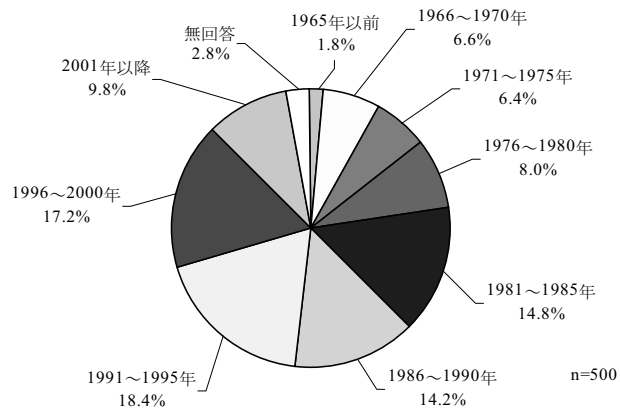
問7 あなたがお持ちの資格（複数回答）



「あなたがお持ちの資格のすべて」の問いに対し、全体では「看護師」が99.2%、「助産師」が98.8%と回答している。

#### 2. 免許取得年

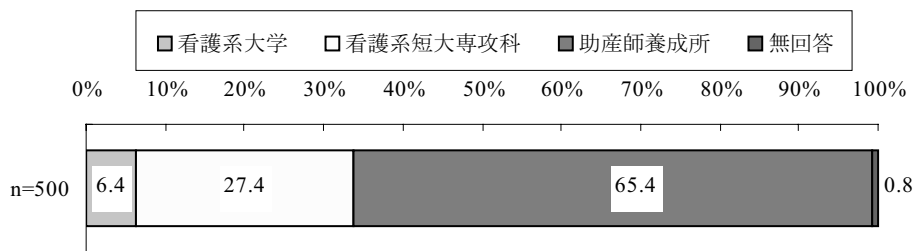
問9 助産師免許取得年はいつですか



「助産師免許取得年はいつですか」の問いでは、1991年以降の免許取得者が45.4%を占めている。

#### 3. 免許取得のための基礎教育

問8 助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか



「助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか」の問いに、「看護系大学」が6.4%、「助産師養成所」が65.4%、「看護系短大専攻科」が27.4%と回答している。

#### 4. 総分娩介助件数

問10 助産師になってから現在までの総分娩介助件数

全体 n=500	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
100.0%	8.4	4.2	8.2	19.8	26.6	13.4	10.8	8.6	396.2件

(別掲) 産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

全体 n=234	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
100.0%	6.0	5.6	7.7	21.4	30.8	12.8	9.0	6.8	328.5件

「助産師になってから現在までの総分娩介助件数」の問いに、全体では「200～500件未満」が26.6%、「100～200件未満」が19.8%と回答している。

産科診療所での就業意向のある者「是非働きたい・選択肢として考えたい」は、分娩介助件数が100件以上の者に多い。

## IV 職歴について

### 1. 通算経験年数

問 13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

全体 n=500	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均年数
100.0%	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8	8.8年

(別掲) 産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

全体 n=234	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均年数
100.0%	4.3	6.0	5.1	11.1	8.1	34.6	22.6	7.7	0.4	8.1年

「助産師として働いた通算経験年数」の問いに、全体では「5～10年未満」が31.8%、「10～20年未満」が22.0%と回答している。

産科診療所での就業意向のある者「是非働きたい・選択肢として考えたい」は、通算経験年数が3年以上の者で8割以上を占める。

(再掲) 問 13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

(助産師になってから現在までの総分娩助件数別)

(%)

	n	合計	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答
全体	500	100.0	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8
～20件	42	100.0	73.8	11.9	0.0	0.0	4.8	7.1	2.4	0.0	0.0
20～50件	21	100.0	9.5	33.3	19.0	9.5	9.5	9.5	9.5	0.0	0.0
50～100件	41	100.0	2.4	12.2	26.8	22.0	12.2	22.0	2.4	0.0	0.0
100～200件	99	100.0	1.0	8.1	9.1	24.2	16.2	32.3	8.1	1.0	0.0
200～500件	133	100.0	0.0	0.0	0.8	6.0	9.0	54.9	22.6	5.3	1.5
500～1000件	67	100.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	37.3	47.8	13.4	0.0
1000件～	54	100.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	3.7	44.4	50.0	0.0
無回答	43	100.0	4.7	0.0	0.0	7.0	4.7	30.2	27.9	20.9	4.7

経験年数と分娩助件数をみると、経験年数が長くなるにつれて、概ね分娩助件数が増加している。

### 2. 過去の経験業務

問 11. あなたがこれまでに助産師として経験した業務（複数回答）

(%)

業務内容	n=500
妊婦の診察	71.6
妊婦の保健指導	91.4
産婦の診察	86.8
分娩助	94.0
褥婦の診察	94.0
褥婦の保健指導	93.8
1ヶ月健診	65.2
母乳保育への指導	90.8
新生児の観察とケア	94.6
乳房管理	91.6
退院後の訪問指導	40.8
育児相談	68.2
学級活動（両親・母親・育児）	84.4
ハイリスク妊産婦のケア	73.6
ハイリスク新生児のケア（NICU）	30.8
婦人科業務	75.2
不妊相談	21.2
中高年相談	15.8
家族計画指導	72.2
その他	8.2
無回答	2.8

「あなたがこれまでに助産師として経験した業務」の問いに、「新生児の観察とケア」が94.6%、「分娩助」94.0%、「褥婦の診察」94.0%、「褥婦の保健指導」93.8%、「乳房管理」91.6%、「妊婦の保健指導」91.4%、「母乳保育の指導」90.8%などが9割以上と回答している。

(再掲) 問11 あなたがこれまでに助産師として経験した業務(分娩件数別)

(%)

業務内容	件数	～20	20～50	50～100	100～200	200～500	500～1000	1000～
妊婦の診察	有	43.3	76.2	78.0	73.7	67.7	83.6	83.3
	無	56.7	23.8	22.0	26.3	32.3	16.4	16.7
妊婦の保健指導	有	60.0	90.5	85.4	94.9	100.0	97.0	100.0
	無	40.0	9.5	14.6	5.1	0.0	3.0	0.0
産婦の診察	有	36.7	85.7	92.7	93.9	92.5	98.5	90.7
	無	63.3	14.3	7.3	6.1	7.5	1.5	9.3
分娩介助	有	46.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	無	53.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
褥婦の診察	有	56.7	100.0	100.0	99.0	99.2	100.0	98.1
	無	43.3	0.0	0.0	1.0	0.8	0.0	1.9
褥婦の保健指導	有	56.7	95.2	100.0	98.0	100.0	100.0	98.1
	無	43.3	4.8	0.0	2.0	0.0	0.0	1.9
1ヶ月健診	有	33.3	47.6	61.0	73.7	66.2	76.1	72.2
	無	66.7	52.4	39.0	26.3	33.8	23.9	27.8
母乳保育への指導	有	53.3	81.0	90.2	98.0	99.2	95.5	100.0
	無	46.7	19.0	9.8	2.0	0.8	4.5	0.0
新生児の観察とケア	有	63.3	95.2	100.0	100.0	100.0	100.0	98.1
	無	36.7	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
乳房管理	有	53.3	95.2	85.4	97.0	99.2	97.0	98.1
	無	46.7	4.8	14.6	3.0	0.8	3.0	1.9
退院後の訪問指導	有	23.3	19.0	31.7	36.4	41.4	58.2	55.6
	無	76.7	81.0	68.3	63.6	58.6	41.8	44.4
育児相談	有	30.0	52.4	51.2	67.7	72.2	88.1	88.9
	無	70.0	47.6	48.8	32.3	27.8	11.9	11.1
学級活動(両親・母親・育児)	有	40.0	76.2	78.0	88.9	92.5	92.5	96.3
	無	60.0	23.8	22.0	11.1	7.5	7.5	3.7
ハイリスク妊産婦のケア	有	30.0	61.9	58.5	74.7	86.5	86.6	87.0
	無	70.0	38.1	41.5	25.3	13.5	13.4	13.0
ハイリスク新生児のケア(NICU)	有	16.7	14.3	24.4	26.3	35.3	34.3	53.7
	無	83.3	85.7	75.6	73.7	64.7	65.7	46.3
婦人科業務	有	33.3	76.2	80.5	78.8	78.2	85.1	88.9
	無	66.7	23.8	19.5	21.2	21.8	14.9	11.1
不妊相談	有	13.3	9.5	9.8	6.1	21.8	38.8	51.9
	無	86.7	90.5	90.2	93.9	78.2	61.2	48.1
中高年相談	有	10.0	0.0	2.4	8.1	15.0	19.4	46.3
	無	90.0	100.0	97.6	91.9	85.0	80.6	53.7
家族計画指導	有	30.0	71.4	63.4	70.7	78.9	83.6	94.4
	無	70.0	28.6	36.6	29.3	21.1	16.4	5.6
n	445※	30	21	41	99	133	67	54

※経験業務と分娩介助件数の両方とも回答のあった者のみ

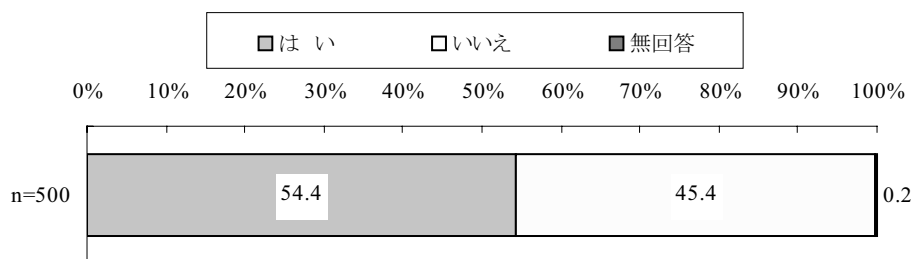
分娩介助件数が多くなるにつれて、「経験あり」の業務が概ね増える傾向にある。

分娩介助件数が20件未満の者は、それぞれの業務について「経験あり」と回答する割合が少ない。

「退院後の訪問指導」「ハイリスク新生児のケア(NICU)」「不妊相談」「中高年相談」については、分娩介助件数が1000件以上であっても、「経験あり」と回答する割合が他の業務に比べて低い。

### 3. 就業状況

#### 問14 現在離職中ですか



「現在離職中ですか」の問いに、全体では「はい」が54.4%、「いいえ」が45.4%と回答している。

#### 4. 離職期間

問 15 前回の職場を退職してからの離職期間はどれぐらいですか

問 14 現在離職中ですか：はい

全体 n=272	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
100.0%	31.6	22.1	14.7	15.1	7.7	7.0	1.8	4.6年

(別掲) 産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

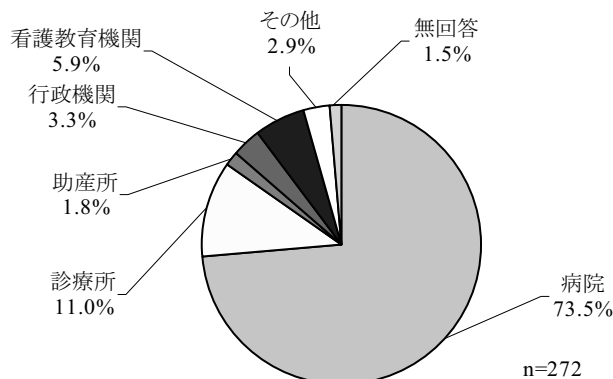
全体 n=180	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
100.0%	30.0	23.3	13.3	16.7	8.3	7.2	1.1	4.8年

「前回の職場を退職してからの離職期間はどれぐらいですか」の問いに、全体では「1年未満」が31.6%、「1～3年未満」が22.1%と回答し、83.5%が10年未満である。

#### 5. 退職前職場施設

問 16 退職前に働いていた職場はどのような施設ですか

問 14 現在離職中ですか：はい



「退職前に働いていた職場はどのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が73.5%、「診療所」が11.0%と回答している。

#### 6. 退職理由

問 17 前回の職場を退職した理由は何ですか（複数回答）

問 14 現在離職中ですか：はい

(%)

離職理由	n=272	(別掲) 退職前の職場：診療所 n=30
結婚	22.8	13.3
出産・育児	23.9	10.0
家族の健康・介護	9.2	13.3
自分の健康	18.8	36.7
定年	4.4	3.3
転居	13.2	3.3
進学	3.7	6.7
留学	0.4	0.0
夫の転勤	16.9	10.0
給与が安い	3.3	13.3
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	5.1	13.3
雇用形態への不満	5.9	10.0
勤務時間が長い・残業が多い	14.3	16.7
休暇が取れない	9.6	16.7
夜勤負担が大きい	13.2	10.0
通勤時間がかかる	5.1	6.7
業務負担が大きい	12.9	20.0
同僚との関係が悪い	3.7	10.0
上司や雇用者との関係が悪い	5.9	10.0
分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない	3.3	6.7
経営理念（看護理念）や方針に不満	7.7	23.3
自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満	7.0	13.3
仕事への興味ややりがいを持っていない	3.3	6.7
自分の適性への不安	5.5	3.3
技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない	3.3	3.3
責任の重さや医療事故への不安	13.6	13.3
他の職場への興味	4.0	6.7
医療のIT化についていけない	1.1	0.0
その他	14.0	13.3
無回答	0.7	0.0

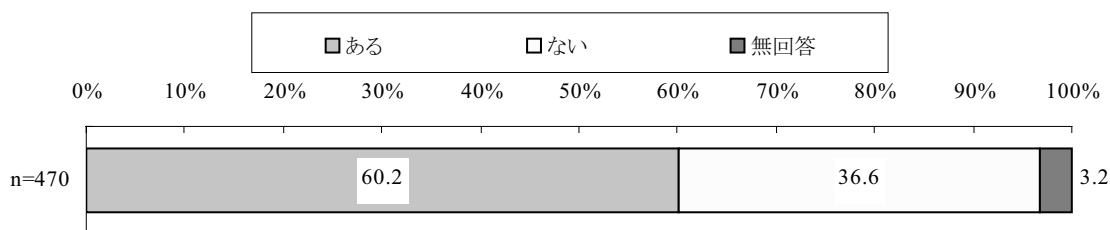
「前回の職場を退職した理由は何ですか」の問いに、「出産・育児」が 23.9%、「結婚」22.8%、「自分の健康」18.8%「夫の転勤」16.9%、「勤務時間が長い・残業が多い」14.3%、「責任の重さや医療事故への不安」13.6%、「転居」13.2%、「夜勤負担が大きい」13.2%、「業務負担が大きい」12.9%などが1割以上と回答している。

前回の職場が「診療所」と回答した者の退職理由は、全体と比べると「結婚」「出産・育児」「転居」を理由とする割合が低い。反対に「自分の健康」「経営理念（看護理念）や方針に不満」「給与が安い」「施設の閉鎖等による雇用者側の都合」「業務負担が大きい」といった割合が高く、なかでも退職理由の上位2項目「自分の健康」「経営理念（看護理念）や方針に不満」と回答した割合は全体と比較して特に高い。

## 7. 他職場での就労経験

問 18 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか

問 13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか：助産師として働いた経験がある

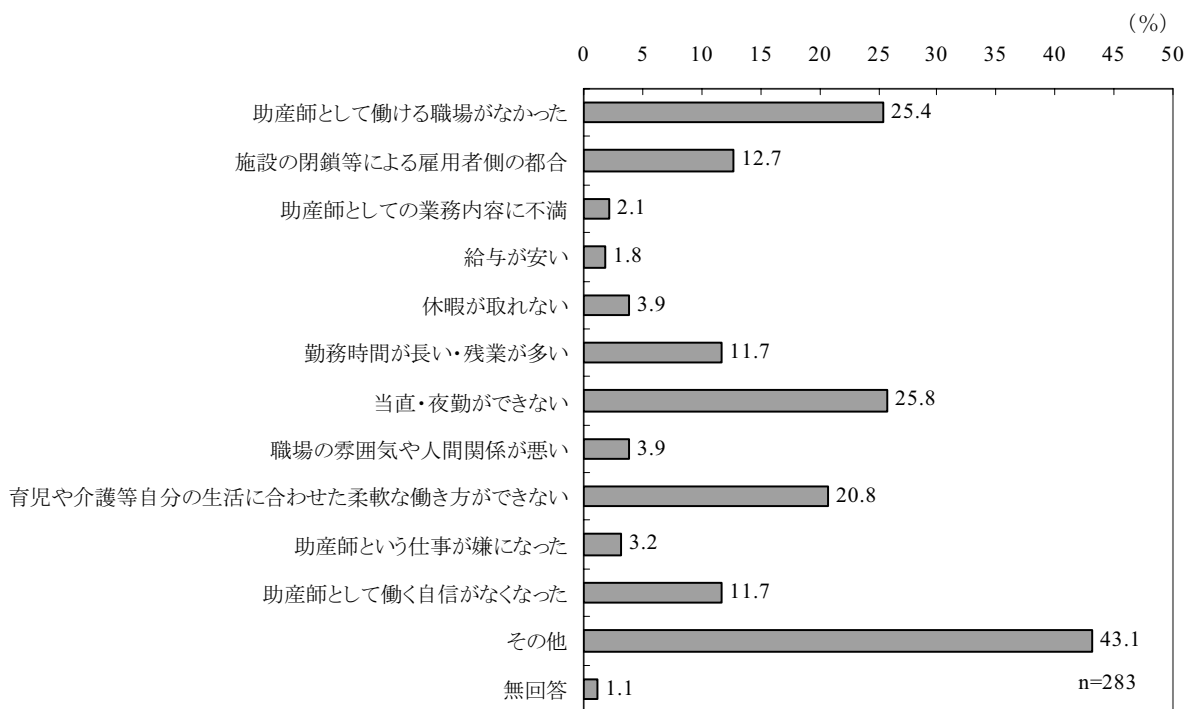


「助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか」の問いに、全体では「ある」が60.2%、「ない」が36.6%と回答している。

問 18-1 助産師として働かなかった理由は何ですか（複数回答）

問 13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか：助産師として働いた経験がある

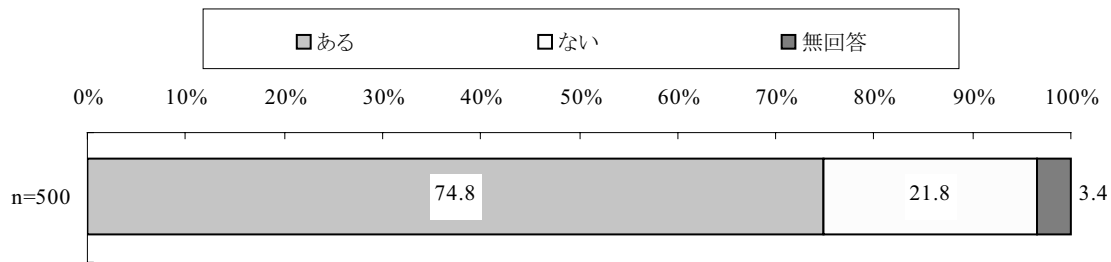
問 18 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか：ある



「助産師として働かなかった理由」の問いに、「当直・夜勤ができない」が25.8%、「助産師として働ける職場がなかった」25.4%、「育児や介護等自分の生活に合わせた柔軟な働き方ができない」20.8%などが、20%以上回答している。また、その他の理由としては、人事異動をあげている者が複数いる。

## 8. 転職経験

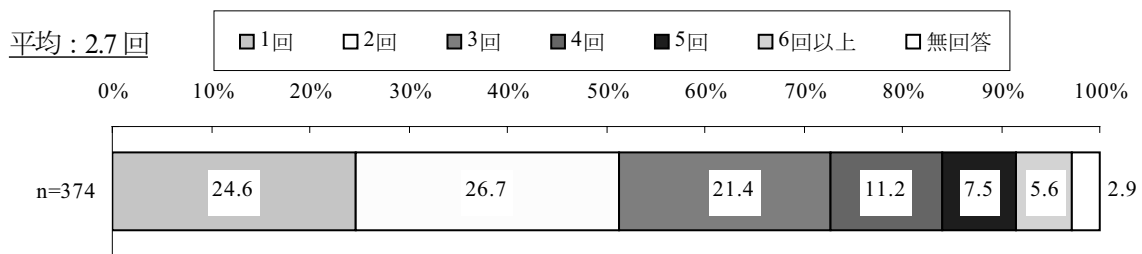
### 問 19 今までに職場を変った経験はありますか



「今までに職場を変った経験はありますか」の問いに、全体では「ある」が74.8%、「ない」が21.8%と回答している。

### 問 19-1 職場を変った回数は合計何回ですか

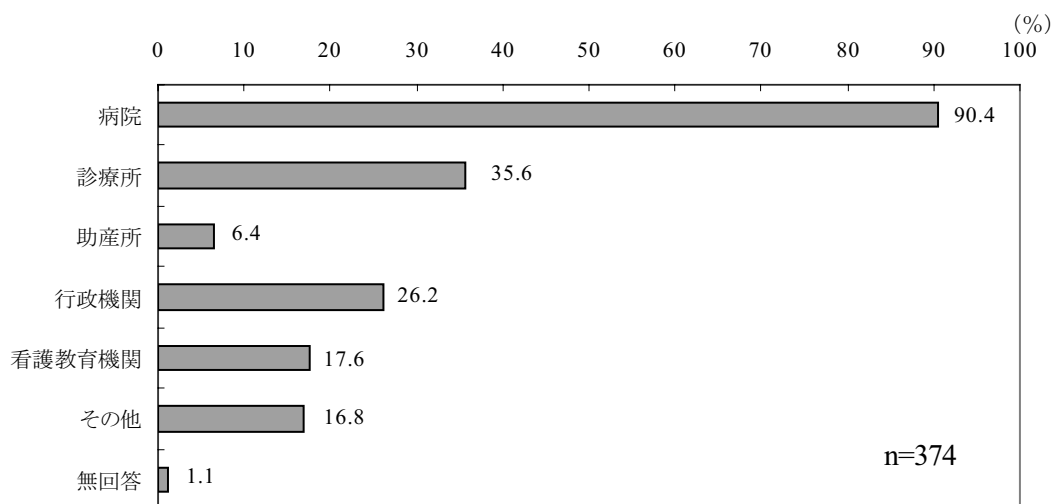
問 19 今までに職場を変った経験はありますか：ある



「職場を変った回数は合計何回ですか」の問いに、全体では「2回」が26.7%、「1回」が24.6%と回答している。

### 問 19-2 あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか（複数回答）

問 19 今までに職場を変った経験はありますか：ある



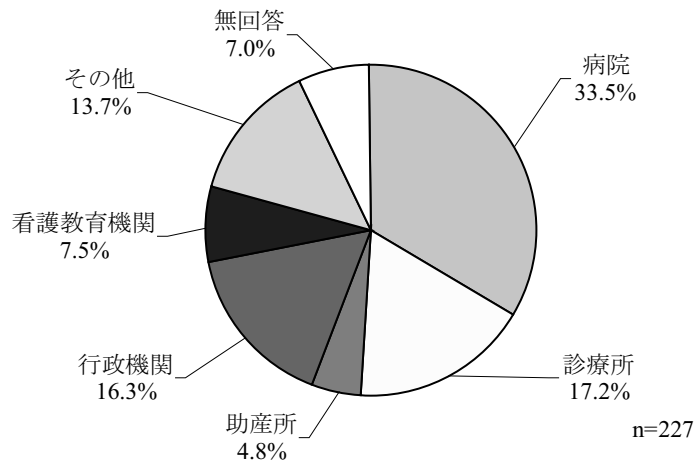
「あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が90.4%、「診療所」が35.6%と回答している。

## V 現就業状況について

### 1. 現在就業中の職場

問20 あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか

問14 現在離職中ですか：いいえ

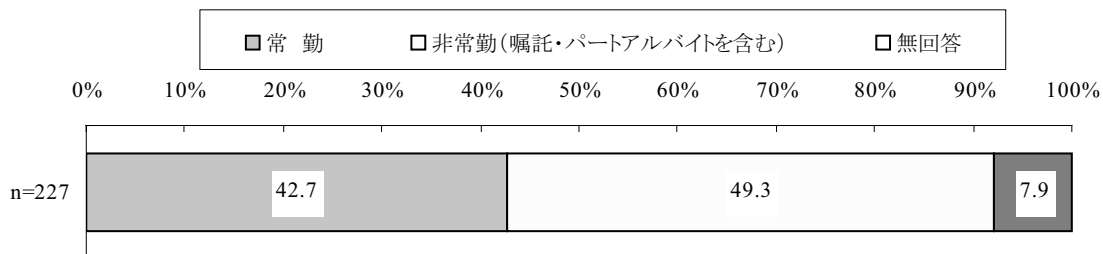


「あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が33.5%、「診療所」が17.2%、「行政機関」が16.3%と回答している。

### 2. 勤務形態

問21 現在の勤務形態は何ですか

問14 現在離職中ですか：いいえ



「現在の勤務形態は何ですか」の問いに、全体では「常勤」が42.7%、「非常勤 (嘱託・パートアルバイトを含む)」が49.3%と回答している。

### 3. 勤続年数

問22 あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか

問14 現在離職中ですか：いいえ

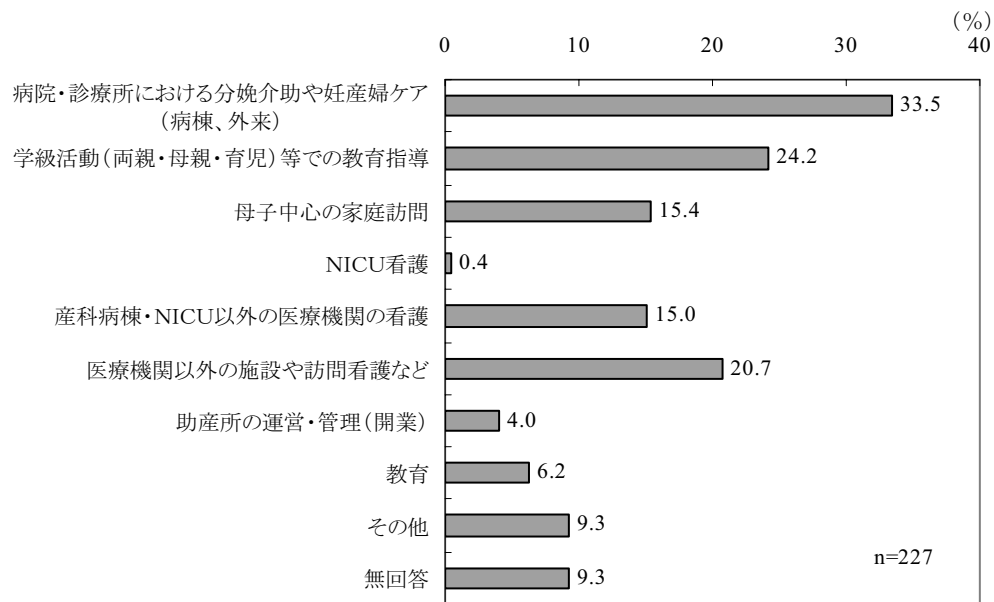
全体 n=227	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答
100.0%	34.4	17.6	15.9	13.2	10.1	8.8

「あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか」の問いに、全体では「1年未満」が34.4%、「1～3年未満」が17.6%と回答している。

#### 4. 関与業務

問 23 あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか（複数回答）

問 14 現在離職中ですか：いいえ

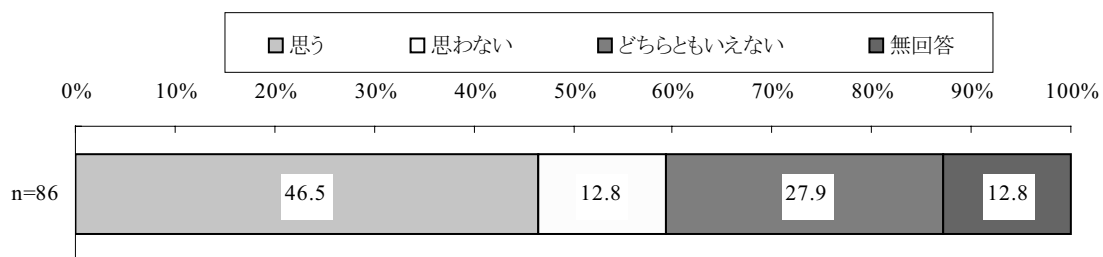


「あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか」の問いに、「病院・診療所における分娩介助や妊産婦ケア (病棟、外来)」が 33.5%、「学級活動 (両親・母親・育児) 等での教育指導」24.2%、「医療機関以外の施設や訪問看護など」20.7%、「母子中心の家庭訪問」15.4%、「産科病棟・NICU 以外の医療機関の看護」15.0%などが 15.0%以上と回答している。

問 23-1 分娩介助等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか

問 14 現在離職中ですか：いいえ

問 23 あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか：助産師としての業務に携わっていない



「分娩介助等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか」の問いに、全体では「思う」が 46.5%、「思わない」が 12.8%と回答している。



## 5. 現職場選択理由

### 問 24 現在の職場を選んだ理由について

問 14 現在離職中ですか：いいえ (%)

理由	n=227	(別掲) 現在働いている職場：診療所 n=39
業務内容に満足している	18.5	12.8
通勤の便がよい	39.6	53.8
施設の運営・経営理念があっている	6.6	5.1
納得のできる看護ができる	7.0	5.1
日勤のみの勤務である	33.9	46.2
給与水準が高い	14.1	15.4
職場の雰囲気がよい	15.9	15.4
職場の人間関係がよい	18.5	25.6
教育・研究体制がしっかりしている	6.6	0.0
周囲に適した職場がない	19.4	33.3
休暇制度が充実している	7.9	7.7
業務の責任体制がしっかりしている	6.6	5.1
医療事故・傷害事故対策がしっかりしている	1.8	0.0
管理者などの人柄がよい	12.8	15.4
託児所があり子どもをあずけて働ける	0.4	0.0
体制が整っており、子育てと仕事の両立がしやすい	3.1	0.0
特になし	3.1	2.6
その他	24.2	17.9
無回答	19.8	10.3

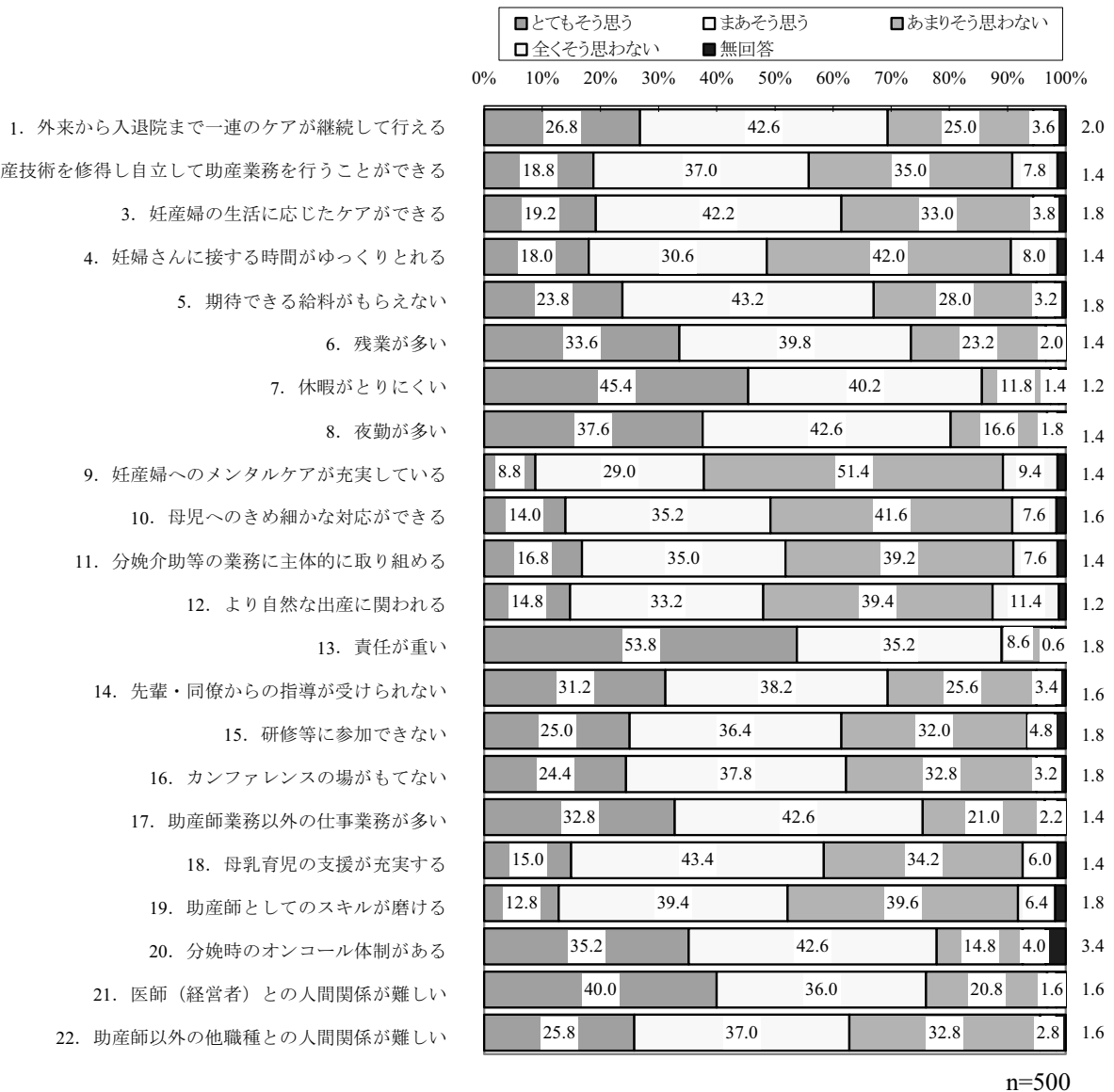
「現在の職場を選んだ理由について」の問いに、「通勤の便がよい」が39.6%、「日勤のみの勤務である」33.9%、「周囲に適した職場がない」19.4%、「業務内容に満足している」18.5%、「職場の人間関係がよい」18.5%、「職場の雰囲気がよい」15.9%などが15.0%以上と回答している。

現在、診療所に勤務している者についてみると、「通勤の便がよい」53.8%、「日勤のみの勤務である」46.2%、「周囲に適した職場がない」33.3%の順で、全体からみた理由の上位と一致している。

産科診療所で就業している者と全体との比較では、「通勤の便がよい」「日勤のみの勤務である」「周囲に適した職場がない」といった理由の上位は同じであるが、その割合が全体的に高い。

## VI 産科診療所のイメージについて

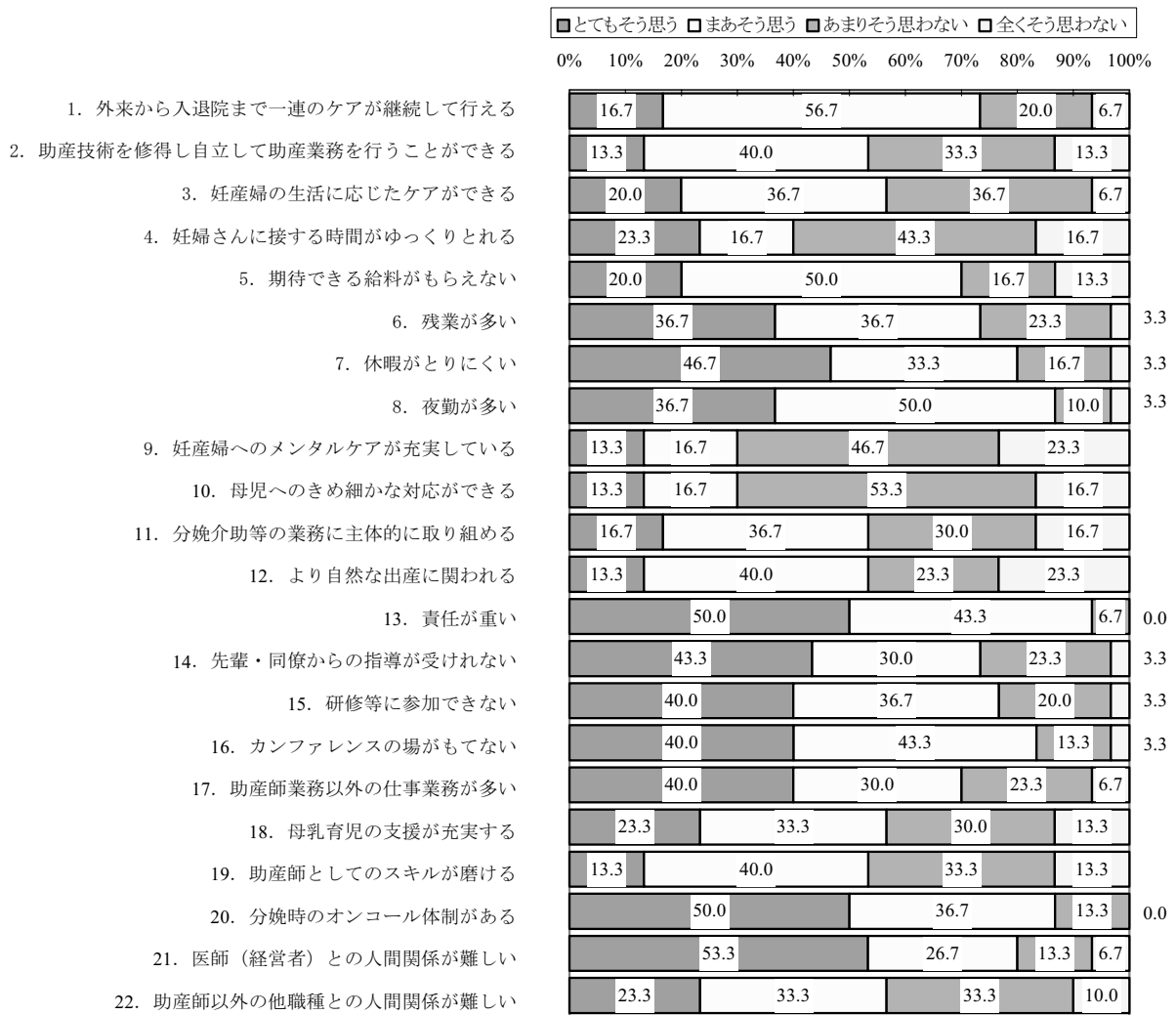
### 問 25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（全体）



「あなたが抱く産科診療所に対するイメージ」の問いに、「とともそう思う」と回答した項目では、「責任が重い」53.8%、「休暇がとりにくい」45.4%、「医師（経営者）との人間関係が難しい」40.0%、「夜勤が多い」37.6%、「分娩時のオンコール体制がある」35.2%、「残業が多い」33.6%、「助産師業務以外の仕事業務が多い」32.8%、「先輩・同僚からの指導が受けられない」31.2%などが30%以上と回答している。

また、「残業が多い」「休暇がとりにくい」「夜勤が多い」といった業務体制に対するネガティブなイメージを肯定する割合が高い。一方、2、3、4、9、10、11、12、18といった助産師としての能力を活かせるようなイメージに対しては否定的な回答の割合が高い。

問25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（退職前に働いていた職場が診療所である者）



n=30

「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、「先輩・同僚からの指導が受けられない」「研修等に参加できない」「カンファレンスの場がもてない」「分娩時のオンコール体制がある」「医師（経営者）との人間関係が難しい」などは「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「期待できる給料がもらえない」「妊産婦へのメンタルケアが充実している」「母児へのきめ細かな対応ができる」「分娩介助等の業務に主体的に取り組める」「より自然な出産に関われる」などは「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「全くそう思わない」と回答した割合が高い。

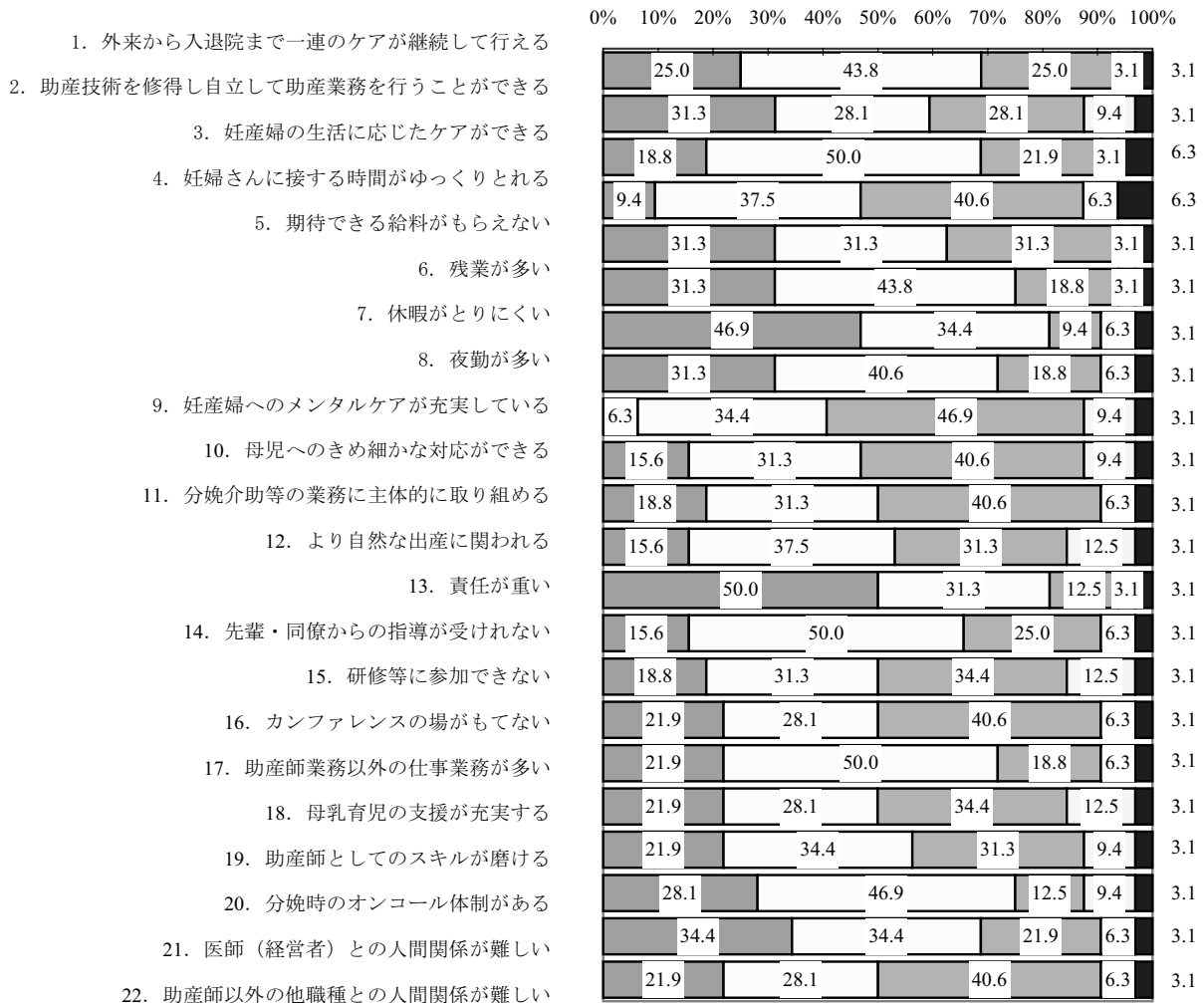
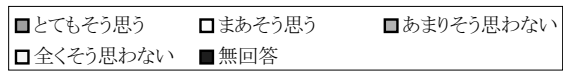
問25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（診療所で働いたことがある者）



n=133

「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

問25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（基礎教育一看護系大学）



n=32

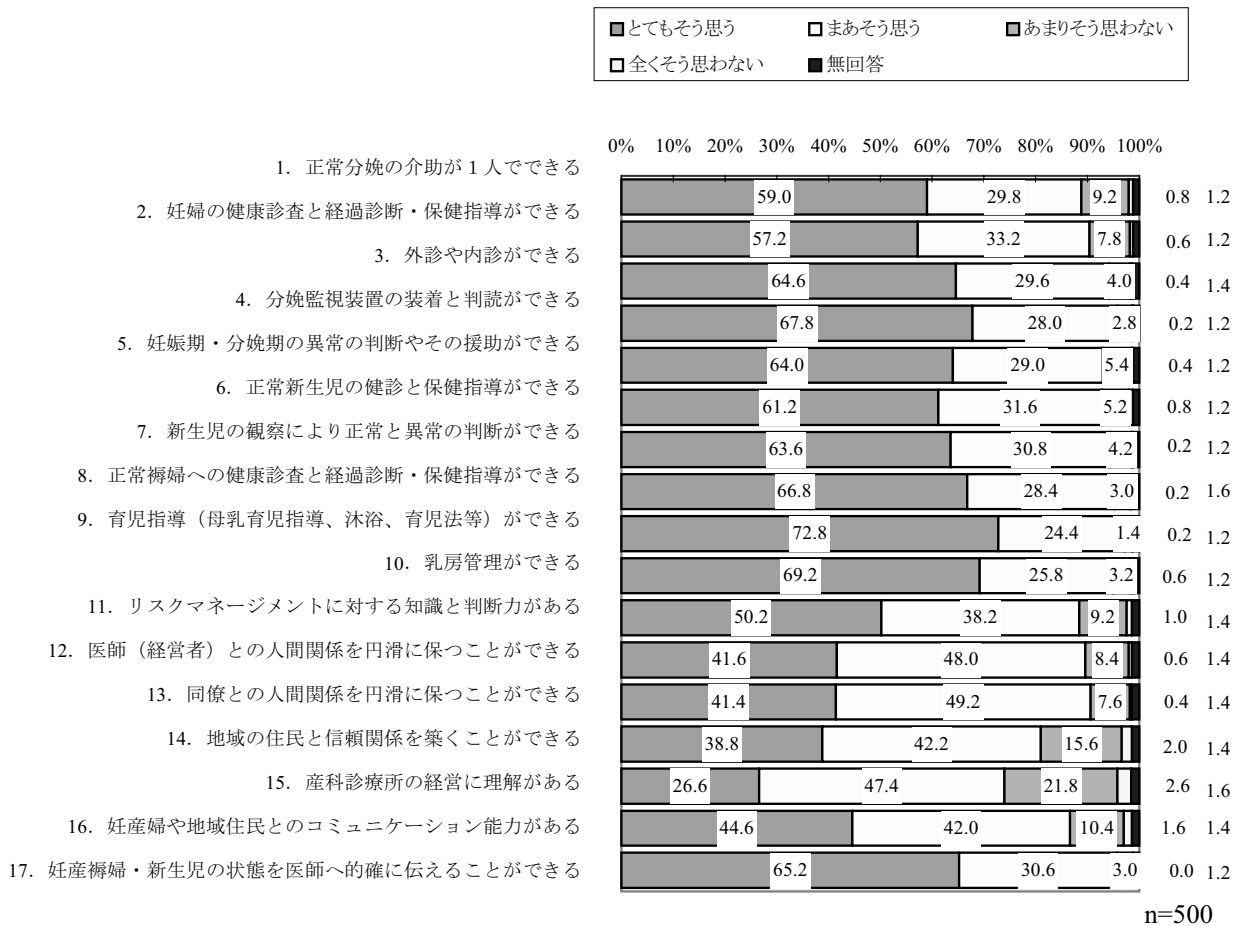
「基礎教育をうけた学校が大学の者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、「助産技術を修得し自立して助産業務を行うことができる」「助産師としてのスキルが磨ける」などは「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「妊婦さんに接する時間がゆっくとれる」「先輩・同僚からの指導が受けられない」「研修等に参加できない」「助産師業務以外の仕事業務が多い」などは「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が低い。

また、「妊産婦の生活に応じたケアができる」「助産師以外の他職種との人間関係が難しい」などは、「基礎教育をうけた学校が大学の者」で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が低い。

## Ⅶ 期待される助産師の能力

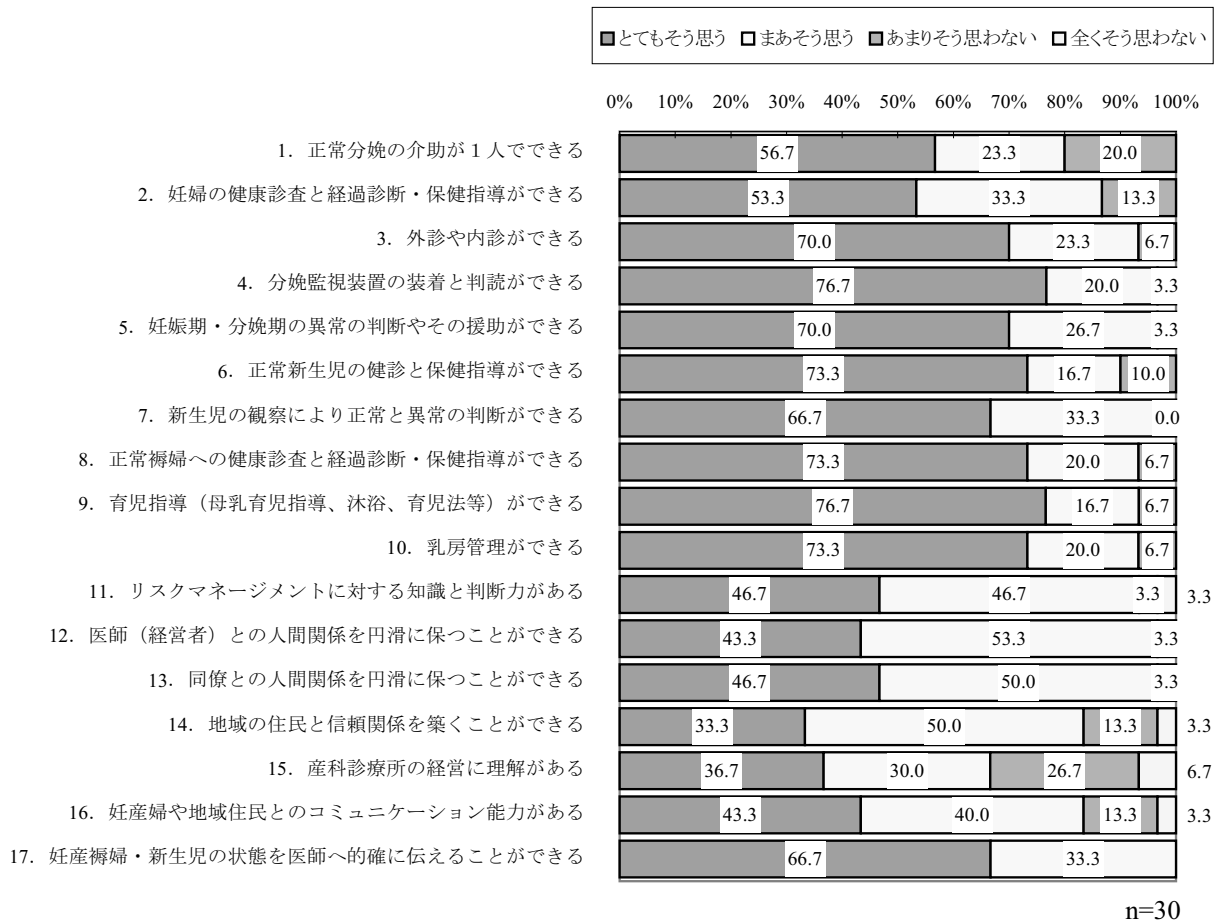
### 問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（全体）



「産科診療所で期待される助産師の能力は」の問いに、全項目で「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は74%以上である。なかでも「とてもそう思う」と回答した項目では、「育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）ができる」が72.8%、「乳房管理ができる」69.2%、「分娩監視装置の装着と判読ができる」67.8%、「正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる」66.8%「妊産褥婦・新生児の状態を医師へ的確に伝えることができる」65.2%、「外診や内診ができる」64.6%、「妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる」64.0%「新生児の観察により正常と異常の判断ができる」63.6%、「正常新生児の健診と保健指導ができる」61.2%などが60%以上と回答している。

1～11、17といった助産師としての実践能力に関する項目に「とてもそう思う」と回答する割合が50%を上回るのに対し、「医師との人間関係を円滑に保つことができる」「同僚との人間関係を築くことができる」「地域の住民と信頼関係を築くことができる」「産科診療所の経営に理解がある」「妊産婦や地域住民とのコミュニケーション能力がある」に「とてもそう思う」と回答する割合は50%以下である。

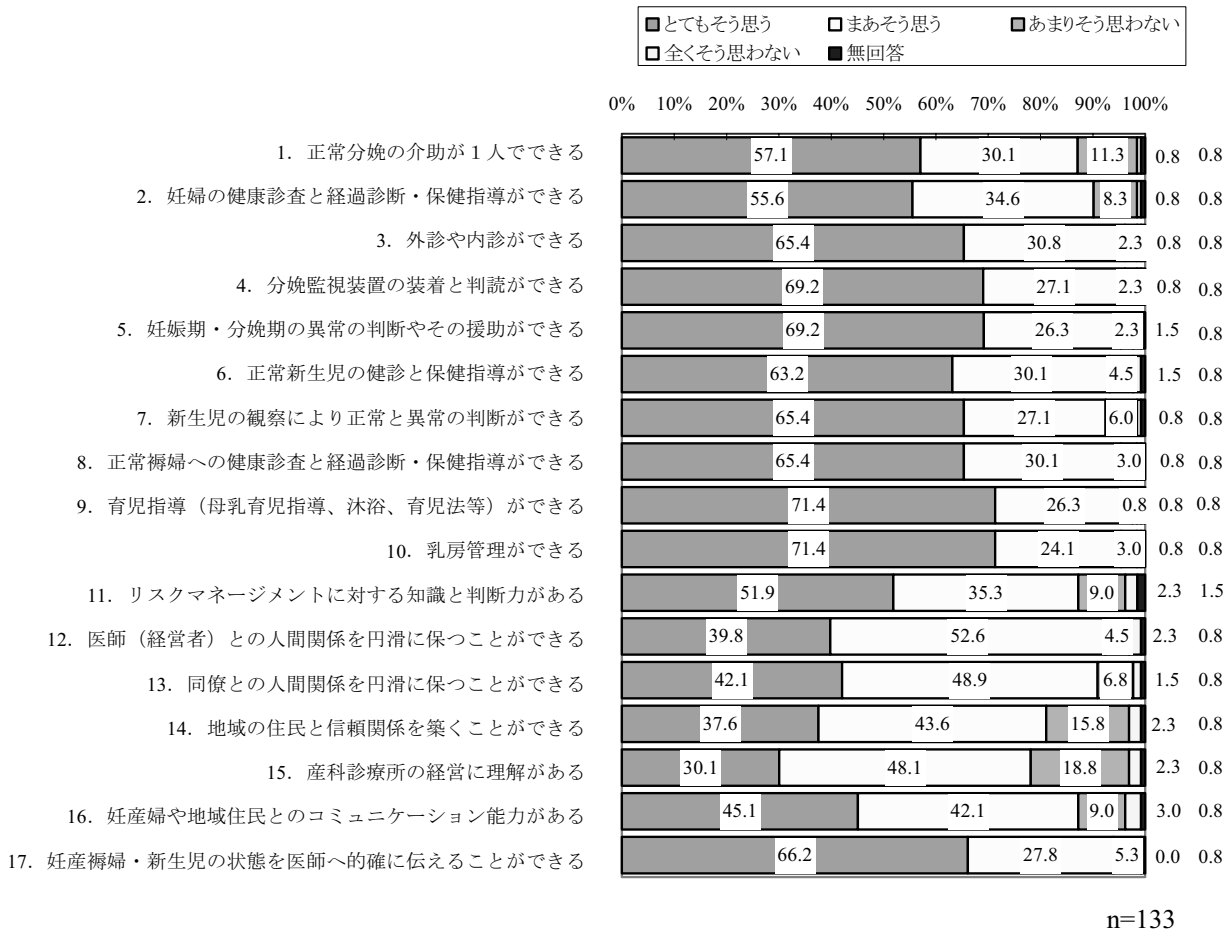
問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（退職前の職場が診療所の者）



「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」との期待される助産師の能力を比較すると、「産科診療所の経営に理解がある」について、「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「正常分娩の介助が1人で行える」については、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が高い。

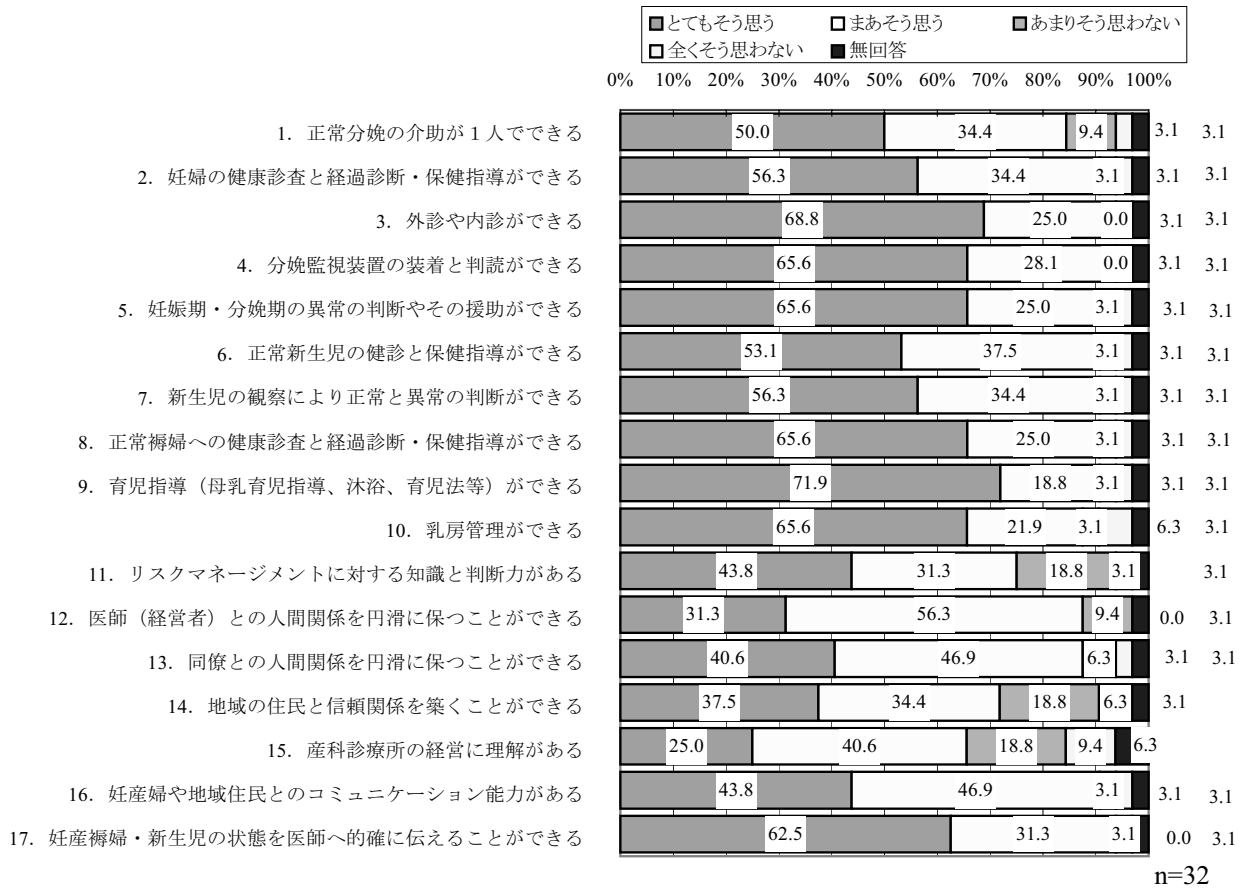
問26 産科診療所で期待される助産師の能力（診療所で働いたことがある者）



「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。



問26 産科診療所で期待される助産師の能力（基礎教育—看護系大学）



「基礎教育をうけた学校が大学の者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、「とても思う」と回答した割合は、全体的に「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが低い傾向にある。

外診や内診ができる」「妊娠期・分娩期の異常や判断やその援助ができる」は「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とても思う」と回答した割合が高い。

反対に、「リスクマネジメントに対する知識と判断力がある」は「基礎教育をうけた学校が大学の者」で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が高い。

## VIII 就業の際の条件について

### 1. 産科診療所での就業意向

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

(%)

		合計	是非働きたい	選択肢として考えたい	気がすすまない	働く意向はまったくない	無回答
	全体 (n=358)	100.0	8.9	56.4	17.3	14.5	2.8
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=72)	100.0	4.2	55.6	19.4	18.1	2.8
	夫や家族 (n=190)	100.0	12.6	61.6	12.6	12.6	0.5
	自分と夫や家族 (n=92)	100.0	4.3	47.8	23.9	16.3	7.6
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=93)	100.0	7.5	48.4	14.0	28.0	2.2
	自分が働かなくても経済的にやっつけていけるが余裕はない (n=150)	100.0	9.3	62.0	18.0	8.0	2.7
	自分が働かないと経済的にやっつけていけない (n=37)	100.0	18.9	59.5	13.5	2.7	5.4
(別掲) 昼間や夜間に子ども (12歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=51)	100.0	7.8	62.7	19.6	7.8	2.0
	なし (n=98)	100.0	13.3	67.3	13.3	5.1	1.0
(別掲) 助産師免許を取得するための基礎教育	看護系大学 (n=17)	100.0	17.6	52.9	11.8	11.8	5.9
	看護系短大専攻科 (n=95)	100.0	7.4	57.9	21.1	11.6	2.1
	助産師養成所 (n=244)	100.0	9.0	55.7	16.4	16.0	2.9
(別掲) 居住地近く (車などで30分以内) で分娩を取り扱っている産科診療所の有無	ある (n=303)	100.0	10.2	57.1	17.5	12.2	3.0
	ない (n=26)	100.0	0.0	50.0	15.4	30.8	3.8
	わからない (n=25)	100.0	4.0	48.0	20.0	28.0	0.0
(別掲) 退職前の職場	病院 (n=200)	100.0	10.0	62.5	15.5	10.5	1.5
	診療所 (n=30)	100.0	20.0	43.3	23.3	13.3	0.0
	助産所 (n=5)	100.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0
	行政機関 (n=9)	100.0	11.1	11.1	22.2	44.4	11.1
	看護教育機関 (n=16)	100.0	0.0	31.3	31.3	37.5	0.0
(別掲) 働いたことのある施設	診療所 (n=64)	100.0	14.1	43.8	21.9	17.2	3.1
(別掲) 現在働いている施設	病院 (n=25)	100.0	4.0	56.0	16.0	12.0	12.0
	行政機関 (n=10)	100.0	0.0	30.0	60.0	0.0	10.0
	看護教育機関 (n=14)	100.0	7.1	71.4	21.4	0.0	0.0

「あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか」の問いに、全体では「是非働きたい」「選択肢として考えたい」をあわせるとが65.3%、「気がすすまない」が17.3%と回答している。

現在の収入源が、「夫や家族」と回答している者の就業意向が高い。

生活状況では、「自分が働かなくても経済的に余裕がある」の就業意向の割合が低く、「自分が働かないと経済的にやっつけていけない」の割合が高い。

昼間や夜間に子ども (12歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等がある者となない者では、ないと回答している者のほうが、就業意向が高い。

看護系大学は、診療所で「是非働きたい」と回答する割合が高い。

退職前の職場が「診療所」「助産所」としている者は産科診療所で「是非働きたい」と回答する割合が高い。

## 2. 希望する勤務形態

### 問 28 働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外

(%)

		合計	常勤	非常勤 (嘱託・パートアル バイトを含む)	無回答
	全体 (n=296)	100.0	31.4	68.2	0.3
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	61.4	38.6	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	20.6	79.4	0.0
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	32.9	65.7	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	23.1	76.9	0.0
	自分が働かなくても経済的にやっつけられるが余裕はない (n=134)	100.0	20.1	79.1	0.7
	自分が働かないと経済的にやっつけられない (n=34)	100.0	41.2	58.8	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども (12歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	21.7	76.1	2.2
	なし (n=92)	100.0	20.7	79.3	0.0

「働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか」の問いに、「非常勤 (嘱託・パートアルバイトを含む)」と 68.2%が回答している。収入源が「夫や家族」あるいは「自分が働かなくても経済的にやっつけられる」と回答した者は、非常勤の希望が多い。

12歳以下の子供がいる者は、世話をしてくれる者の有無に関わらず、非常勤の希望が多い。

## 3. 希望する勤務日数

### 問 29 勤務日数について

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外

(%)

		合計	週に5日程度	週3~4日程度	週1~2日程度	その他	無回答
	全体 (n=296)	100.0	39.9	47.3	10.5	1.7	0.7
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	57.9	26.3	10.5	5.3	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	31.5	56.4	10.3	1.2	0.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	45.7	41.4	11.4	0.0	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	23.1	60.0	13.8	1.5	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっつけられるが余裕はない (n=134)	100.0	35.1	53.0	10.4	0.7	0.7
	自分が働かないと経済的にやっつけられない (n=34)	100.0	61.8	32.4	5.9	0.0	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども (12歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	32.6	56.5	6.5	2.2	2.2
	なし (n=92)	100.0	34.8	59.8	4.3	1.1	0.0

「勤務日数について」の問いに、「週3~4日程度」が47.3%、「週に5日程度」が39.9%と回答している。

収入源が「自分」あるいは「自分が働かないと経済的にやっつけられない」と回答した者は、週の勤務日数が多い。

12歳以下の子供を持つものは、週3~4日程度を希望する割合が高い。

#### 4. 希望する勤務時間

##### 問30 1日の勤務時間について

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外 (%)

		合計	7 ～ 8 時間	5 ～ 6 時間	3 ～ 4 時間	その他	無 回 答
	全体 (n=296)	100.0	44.6	39.5	14.9	0.3	0.7
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	71.9	24.6	1.8	1.8	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	30.3	45.5	23.6	0.0	0.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	54.3	38.6	5.7	0.0	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	38.5	40.0	20.0	0.0	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっつけられるが余裕はない (n=134)	100.0	32.8	47.8	18.7	0.0	0.7
	自分が働かないと経済的にやっつけられない (n=34)	100.0	52.9	35.3	11.8	0.0	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	34.8	43.5	19.6	0.0	2.2
	なし (n=92)	100.0	27.2	51.1	21.7	0.0	0.0

「1日の勤務時間について」の問いに、「7～8時間」が44.6%、「5～6時間」が39.5%と回答している。

収入源が「自分」あるいは「自分が働かなくて経済的にやっつけられない」と回答した者は、長い就労時間を希望する割合が高い。

12歳以下の子供を持つ者は、「1日5～6時間程度」の勤務を希望する割合が高い。

#### 5. 希望勤務体制

##### 問31 希望する勤務体制について

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外 (%)

		合計	日勤のみ	月1～2回程度の夜勤なら可能	月3～5回程度の夜勤なら可能	月6～8回程度の夜勤なら可能	月9回以上の夜勤でも可能	夜勤のみでも可能	オンコールなら可能	その他	無回答
	全体 (n=296)	100.0	64.2	15.2	10.8	3.4	1.0	2.4	0.3	1.4	1.4
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	33.3	21.1	21.1	12.3	3.5	7.0	0.0	1.8	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	78.2	10.3	6.7	1.8	0.0	0.6	0.6	0.6	1.2
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	54.3	22.9	12.9	0.0	1.4	2.9	0.0	2.9	2.9
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	72.3	7.7	7.7	3.1	1.5	3.1	1.5	1.5	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっつけられるが余裕はない (n=134)	100.0	75.4	14.2	6.7	0.0	0.0	0.7	0.0	1.5	1.5
	自分が働かないと経済的にやっつけられない (n=34)	100.0	52.9	26.5	14.7	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
(別掲) 昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	71.7	17.4	4.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	なし (n=92)	100.0	83.7	8.7	3.3	1.1	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1

「希望する勤務体制について」の問いに、全体では「日勤のみ」が64.2%、「月1～2回程度の夜勤なら可能」が15.2%と回答している。

収入源が「夫や家族」あるいは「自分が働かなくても経済的にやっつけられる」「自分が働かなくても経済的にやっつけられるが余裕はない」と回答した者は、日勤のみを希望する割合が高い。

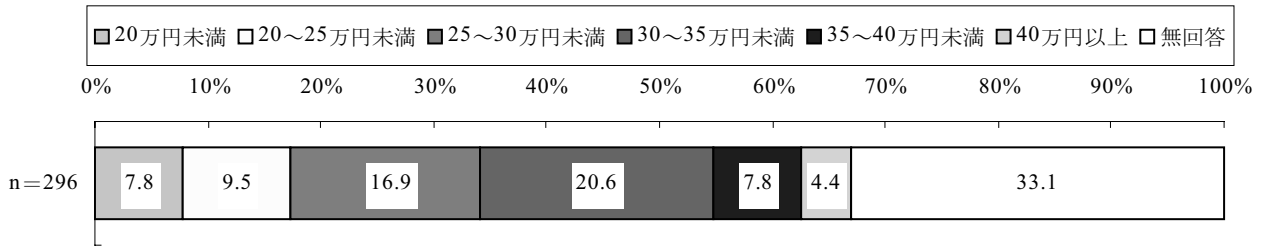
12歳以下の子供を持ち、子供の世話をしてくれる家族や保育者等がない者は日勤のみを希望する割合が高い。

収入源が「自分」「自分や夫や家族」「自分が働かなくてやっつけられない」と回答している者は、全体との比較では夜勤ができる割合が高く、月の夜勤回数も多い。

## 6. 希望給与

### 問 32-1 希望給与額（税込み総支給額）／月給

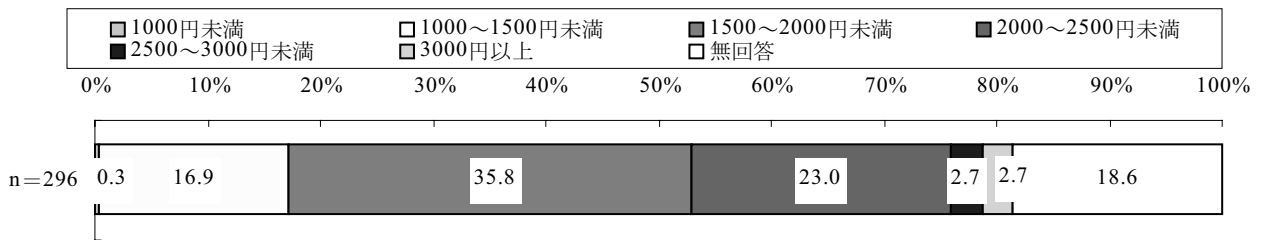
平均：268,762 円



「月給の希望給与額」の問いに、「30~35 万円未満」が 20.6%、「25~30 万円未満」が 16.9%と回答している。

### 問 32-2 希望給与額（税込み総支給額）／時給

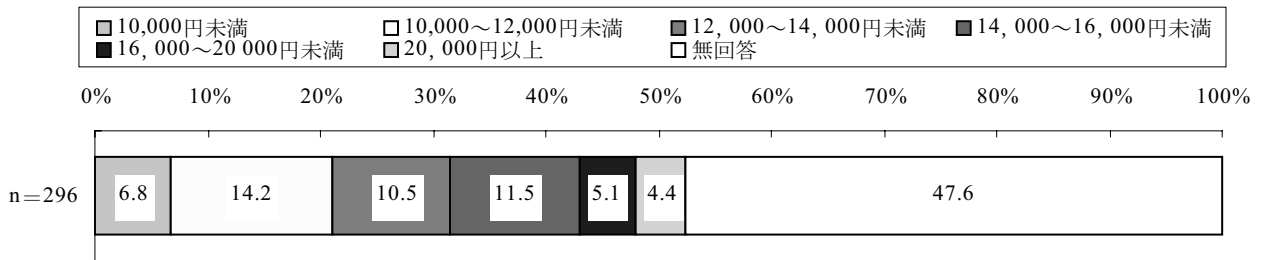
平均：1,721 円



「時給の希望給与額」の問いに、「1,500~2,000 円未満」が 35.8%、「2,000~2,500 円未満」が 23.0%と回答している。

### 問 32-3 希望給与額（税込み総支給額）／日給

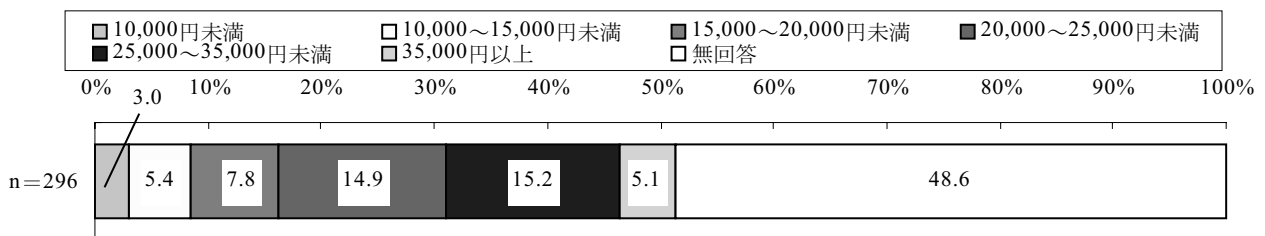
平均：13,343 円



「日給の希望給与額」の問いに、「10,000~12,000 円未満」が 14.2%、「14,000~16,000 円未満」が 11.5%と回答している。

### 問 32-4 希望給与額（税込み総支給額）／夜勤当直

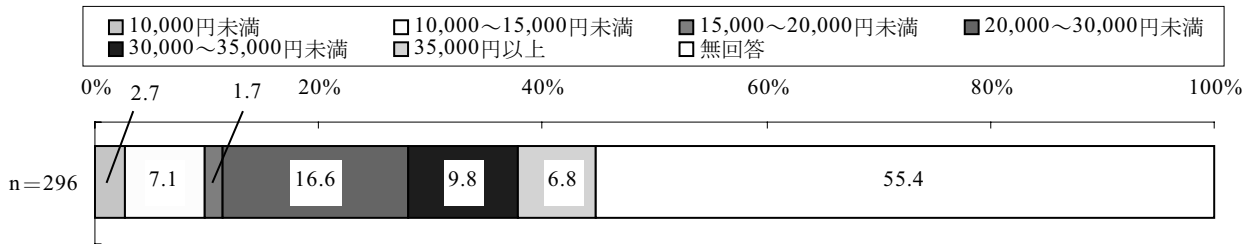
平均：22,474 円



「夜勤当直の希望給与額」の問いに、「25,000~35,000 円未満」が 15.2%、「20,000~25,000 円未満」が 14.9%と回答している。

問32-5 希望給与額（税込み総支給額）／分娩オンコール1件につき

平均：24,189円

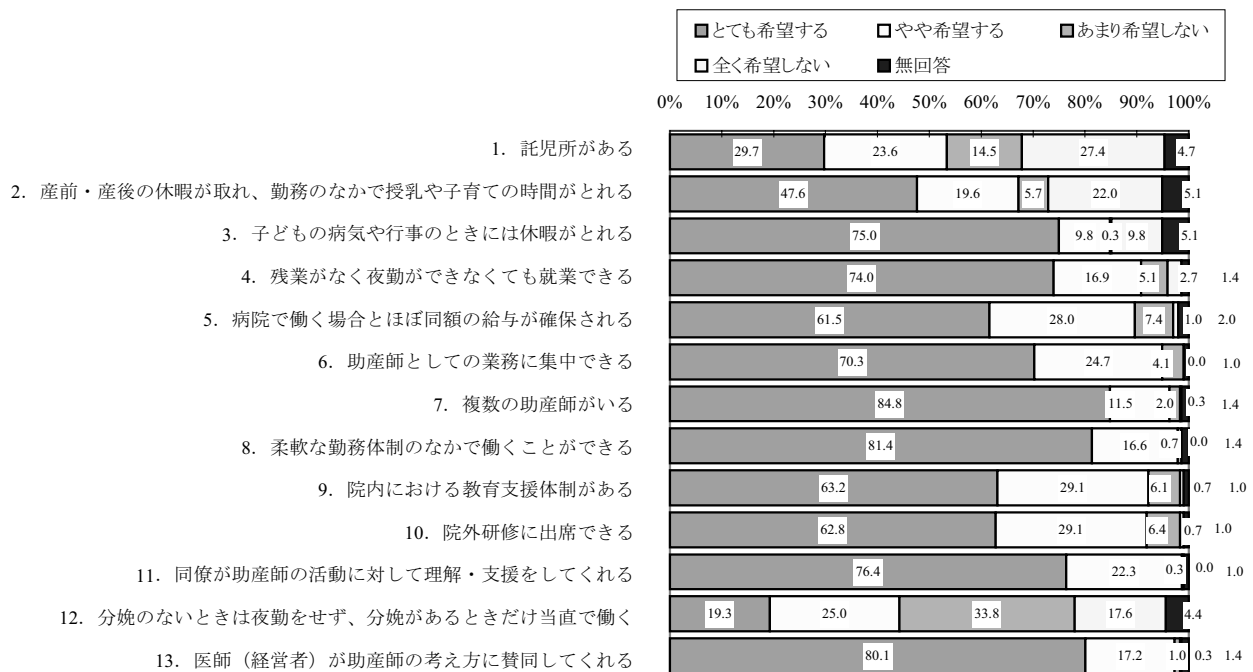


「分娩オンコール1件につきの希望給与額」の問いに、「20,000～30,000円未満」が16.6%、「30,000～35,000円未満」が9.8%と回答している。

7. 希望条件

問33 産科診療所に就業する際、希望する条件

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



n=296

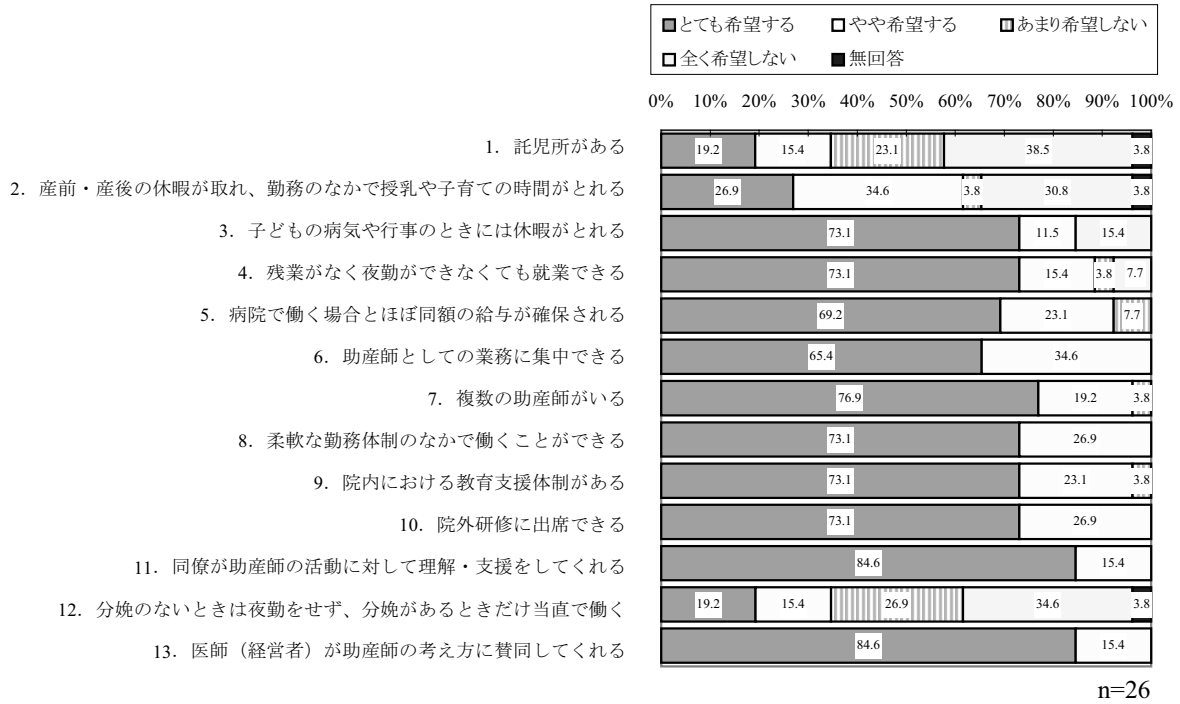
「産科診療所に就業する際、希望する条件」の問いに、「とても希望する」と回答した項目では、「複数の助産師がいる」が84.8%、「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」81.4%、「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」80.1%、「同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる」76.4%、「子どもの病気や行事のときには休暇がとれる」75.0%、「残業がなく夜勤ができなくても就業できる」74.0%、「助産師としての業務に集中できる」70.3%などが70%以上の回答をしている。

「とても希望する」が80%以上の項目は「複数の助産師がいる」「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」である。13項目中11項目が「とても希望する」を約5割以上の割合で希望しているが、「託児所がある」「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」は希望する割合が少ない。

「託児所がある」「産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる」「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」については「全く希望しない」の割合が高い。

問33 産科診療所に就業する際、希望する条件（退職前の職場が診療所の者）

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



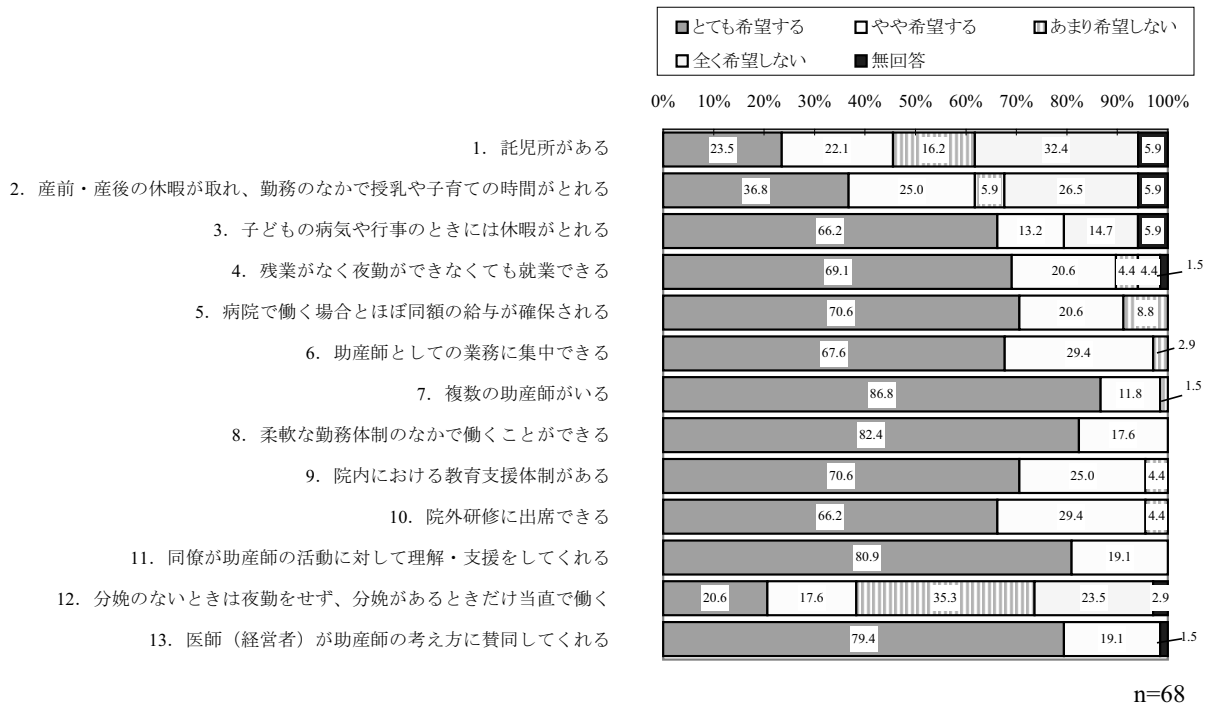
「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」との希望する条件を比較すると、「院内における教育支援体制がある」「院外研修に出席できる」について、「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「託児所がある」「産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる」は「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが「とてもそう思う」と回答した割合が低い。

また、「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」は、「退職前に働いていた職場が診療所である者」は「全く希望しない」の割合が高い。

問33. 産科診療所に就業する際、希望する条件（診療所で働いたことがある者）

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

8. 就労希望時期

問35 就労希望時期はいつごろですか

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外

(%)

	合計	すぐにも働きたい	約何ヶ月後に働きたい	約何年後に働きたい	わからない	無回答	
全体 (n=296)	100.0	28.7	17.9	13.2	34.1	6.1	
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	24.6	12.3	7.0	40.4	15.8
	夫や家族 (n=165)	100.0	29.7	23.6	17.6	25.5	3.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	28.6	10.0	8.6	48.6	4.3
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	27.7	13.8	16.9	36.9	4.6
	自分が働かなくても経済的にやっつけていけるが余裕はない (n=134)	100.0	27.6	23.9	16.4	29.1	3.0
	自分が働かないと経済的にやっつけていけない (n=34)	100.0	41.2	14.7	5.9	35.3	2.9

「就労希望時期はいつごろですか」の問いに、全体では「わからない」が34.1%、「すぐにも働きたい」が28.7%と回答している。

なかでも「現在の生活状況」でみると、「自分が働かないと経済的にやっつけていけない」と回答した人は「すぐにも働きたい」と回答した割合が高い。

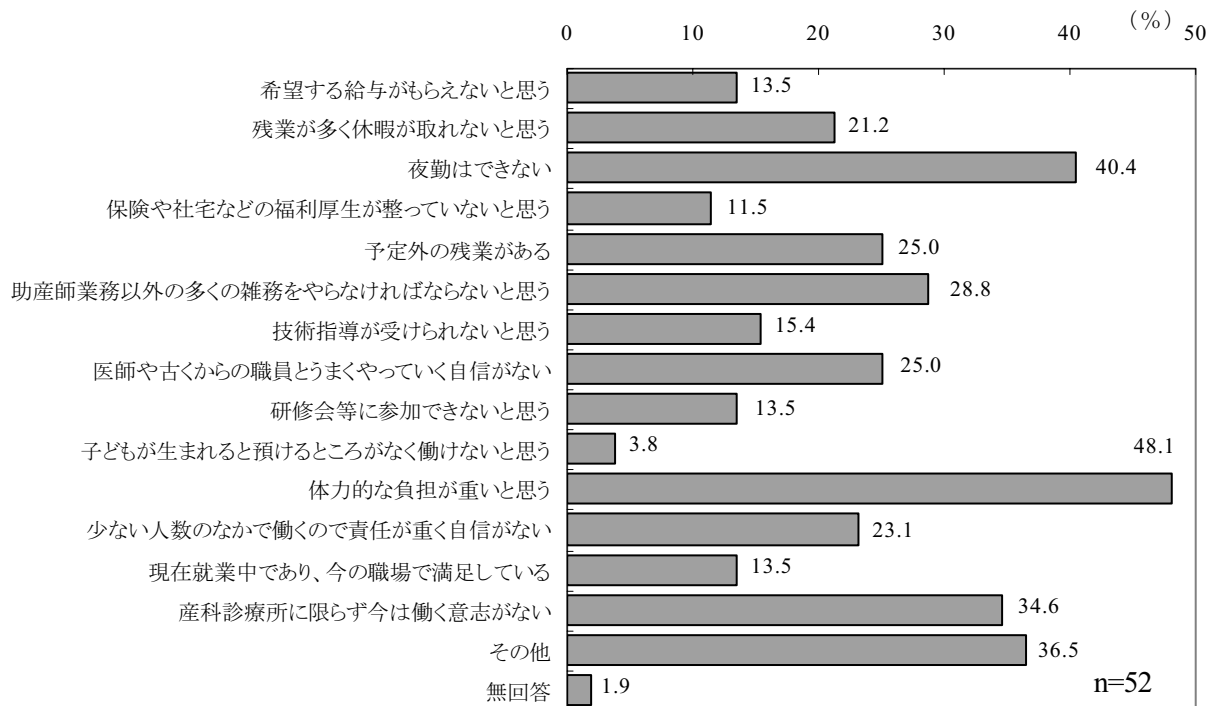


## 9. 産科診療所での就労阻害要因

### 問36 産科診療所での就業を希望しない理由（複数回答）

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：働く意向はまったくない



「産科診療所での就業を希望しない理由」の問いに、「体力的な負担が重いと思う」が48.1%、「夜勤はできない」40.4%、「産科診療所に限らず今は働く意志がない」34.6%、「助産師業務以外の多くの雑務をやらなければならないと思う」28.8%、「予定外の残業がある」25.0%、「医師や古くからの職員とうまくやっていく自信がない」25.0%などが25.0%以上と回答している。

## Ⅹ 研修への参加意向について

### 1. 研修参加意向

問37 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか (％)

		合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
	全体 (n=500)	100.0	81.4	3.6	10.4	4.6
(別掲)	基礎教育を受けた学校の種類					
	看護系大学 (n=32)	100.0	75.0	0.0	18.8	6.3
	看護系短大専攻科 (n=137)	100.0	85.4	1.5	10.9	2.2
	助産師養成所 (n=327)	100.0	80.4	4.9	9.5	5.2
(別掲)	助産師として働いた通算経験年数					
	1年未満 (n=37)	100.0	62.2	13.5	16.2	8.1
	1～2年未満 (n=25)	100.0	80.0	0.0	12.0	8.0
	2～3年未満 (n=25)	100.0	88.0	4.0	8.0	0.0
	3～4年未満 (n=48)	100.0	87.5	4.2	6.3	2.1
	4～5年未満 (n=39)	100.0	89.7	0.0	7.7	2.6
	5～10年未満 (n=159)	100.0	84.3	1.9	11.9	1.9
	10～20年未満 (n=110)	100.0	82.7	1.8	9.1	6.4
	20年以上 (n=53)	100.0	69.8	7.5	11.3	11.3
(別掲)	就業状況					
	離職中 (n=272)	100.0	77.2	4.0	13.2	5.5
	就業中 (n=227)	100.0	86.3	3.1	7.0	3.5
(別掲)	前回の職場を退職してからの離職期間					
	1年未満 (n=86)	100.0	84.9	1.2	10.5	3.5
	1～3年未満 (n=60)	100.0	78.3	5.0	13.3	3.3
	3～5年未満 (n=40)	100.0	75.0	0.0	20.0	5.0
	5～10年未満 (n=41)	100.0	75.6	7.3	9.8	7.3
	10～15年未満 (n=21)	100.0	66.7	0.0	19.0	14.3
	15年以上 (n=19)	100.0	63.2	15.8	15.8	5.3
(別掲)	退職前に働いていた職場					
	診療所 (n=30)	100.0	90.0	-	6.7	3.3
(別掲)	働いたことのある職場					
	診療所 (n=133)	100.0	88.0	2.3	6.8	3.0
(別掲)	就業意向					
	是非働きたい・選択肢として考えたい (n=234)	100.0	89.7	0.9	6.8	2.6

「助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか」の問いに、全体では81.4%が「参加したい」と回答している。

助産師の経験年数別でみると、経験年数「1年未満」「20年以上」は「参加したい」の割合が低く、「2～5年未満」の範囲で、「参加したい」の割合が高い。

看護系大学は全体と比較して研修への参加意向が低い。

就業中の者や、離職期間が短い者ほど研修への参加意向が高い傾向にある。

診療所への就業意向のある者は、研修への参加意向が高い。

### 2. 希望する研修内容

問37-1 研修で受けてみたい内容は何か (％)

	全体 (n=407)	(別掲) 基礎教育を受けた学校の種類			(別掲) 就業意向
		看護系大学 (n=24)	看護系短大専 攻科 (n=117)	助産師養成所 (n=263)	是非働きたい・選択肢と して考えたい (n=210)
分娩介助等の実技演習	49.4	45.8	50.4	49.0	53.8
最近の産科管理	69.5	62.5	68.4	70.3	72.9
母乳育児管理	68.8	62.5	72.6	67.3	67.1
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	54.2	70.1	70.7	71.9
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	33.3	37.6	45.2	42.4
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	45.8	36.8	42.6	40.5
助産記録のあり方と実際	31.2	16.7	31.6	32.3	36.7
産科救急の対処	67.6	66.7	70.1	66.2	71.4
アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて	61.2	62.5	63.2	60.1	62.9
産科の医療安全と事故防止	52.1	45.8	51.3	53.2	57.6
子育て支援と虐待防止	44.0	37.5	47.9	43.0	41.4
コミュニケーションスキル	28.5	20.8	26.5	29.7	27.6
助産師のキャリア開発	38.1	37.5	34.2	39.5	40.0
新生児のケアと実際	50.4	37.5	47.9	52.5	48.6
その他	6.9	4.2	6.8	7.2	6.2
無回答	0.5	4.2	0.9	0.0	0.0

「研修で受けてみたい内容は何か」の問いに、「最近の産科管理」69.5%、「超音波分娩監視装置など最近の医療」69.5%、「母乳育児管理」が68.8%、「産科救急の対処」67.6%、「アクティブバース・フリースタイルなどのスタ

イルについて」61.2%などが60%以上と回答している。

逆に、「コミュニケーションスキル」、「助産記録のあり方と実際」、「助産師のキャリア開発」の希望が少ない。

全体と就業意向のある者とを比較すると「助産記録のあり方と実際」、「産科救急の対処」「産科の医療安全と事故防止」の割合が高い。

基礎教育を受けた学校の種類別でみると、看護系大学は「超音波分娩監視装置など最近の医療」「助産記録のあり方と実際」「新生児のケアと実際」を希望する割合が特に低くほとんどの項目において希望する割合が低い傾向にある。反対に、看護系大学で希望する割合が高いのは、「妊・産・褥婦のケアと実際」である。

(再掲) 問37-1. 研修で受けたい内容は何か(助産師の通算経験年数別)(複数回答) (%)

	全体 (n=404)	1年 (n=23)	1~2年 (n=20)	2~3年 (n=22)	3~4年 (n=42)	4~5年 (n=35)	5~10年 (n=134)	10~20年 (n=91)	20年~ (n=37)
分娩介助等の実技演習	49.4	69.6	75.0	77.3	64.3	68.6	44.0	35.2	21.6
最近の産科管理	69.5	60.9	75.0	72.7	71.4	65.7	73.9	69.2	56.8
母乳育児管理	68.8	87.0	85.0	72.7	81.0	68.6	70.9	58.2	48.6
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	56.5	80.0	77.3	83.3	82.9	64.9	69.2	54.1
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	65.2	75.0	50.0	45.2	45.7	42.5	33.0	21.6
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	60.9	80.0	50.0	45.2	37.1	39.6	34.1	21.6
助産記録のあり方と実際	31.2	17.4	55.0	45.5	28.6	37.1	30.6	26.4	29.7
産科救急の対処	67.6	56.5	75.0	77.3	81.0	80.0	65.7	60.4	59.5
アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて	61.2	52.2	85.0	68.2	69.0	60.0	59.0	64.8	43.2
産科の医療安全と事故防止	52.1	34.8	60.0	50.0	54.8	48.6	50.0	54.9	62.2
子育て支援と虐待防止	44.0	65.2	55.0	31.8	47.6	34.3	41.8	42.9	51.4
コミュニケーションスキル	28.5	26.1	40.0	27.3	23.8	20.0	26.1	35.2	32.4
助産師のキャリア開発	38.1	26.1	60.0	36.4	21.4	34.3	36.6	48.4	40.5
新生児のケアと実際	50.4	65.2	65.0	40.9	71.4	51.4	48.5	45.1	35.1
その他	6.9	3	0.0	0.0	19.0	2.9	6.7	6.6	2.7
無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.1	0.0

通算経験年数別でみると、それぞれの研修内容に対して、経験年数5年未満で「参加したい」の割合が概ね高い。反対に、経験20年以上では、「参加したい」の割合は概ね低い。ただし、「産科の医療安全と事故防止」と「子育て支援と虐待防止」は「参加したい」の割合が高い。ただし、経験「1年未満」は、「最近の産科管理」「超音波分娩監視装置など最近の医療」「助産記録のあり方と実際」「産科救急の対処」「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」「産科の医療安全と事故防止」について、「参加したい」の割合が低い。平均と比べて「参加したい」の割合が高いのは、「分娩介助等の実技演習」の「1年未満~5年未満」、「母乳育児管理」の「1年未満~4年未満」、「超音波分娩監視装置など最近の医療」の「1年~5年未満」、「妊婦健康診査・標準的保健指導」の「1年未満~2年未満」、「妊・産・褥婦のケアと実際」の「1年未満~3年未満」、「助産記録のあり方と実際」の「1年~3年未満」、「産科救急の対処」の「1年~5年未満」、「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」の「1年~4年未満」、「子育て支援と虐待防止」の「1年未満」、「助産師のキャリア開発」の「1~2年未満」、「新生児のケアと実際」の「1年未満~2年未満・3~4年未満」である。

「分娩介助等の実技演習」は経験5年未満で希望する割合が高い。

「超音波分娩監視装置など最近の医療」については、経験1年未満と20年以上で希望する割合が低い。

「妊婦健康診査・標準的保健指導」「妊・産・褥婦のケアと実際」は経験20年以上で希望する割合が低い。

「助産記録のあり方と実際」「産科の医療安全と事故防止」を希望する割合は経験1年未満の者で低いが、反対に「子育て支援と虐待防止」は1年未満の者で高い。

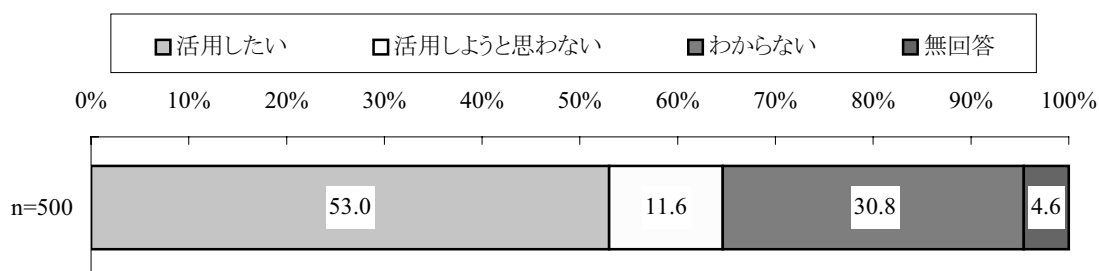
「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」を希望する割合は経験20年以上の者で低いが、反対に「産科の医療安全と事故防止」は20年以上の者で高い。

「新生児のケアと実際」は、経験20年以上では希望する割合が低い。

## X 求職活動について

### 1. 就業支援活用意向

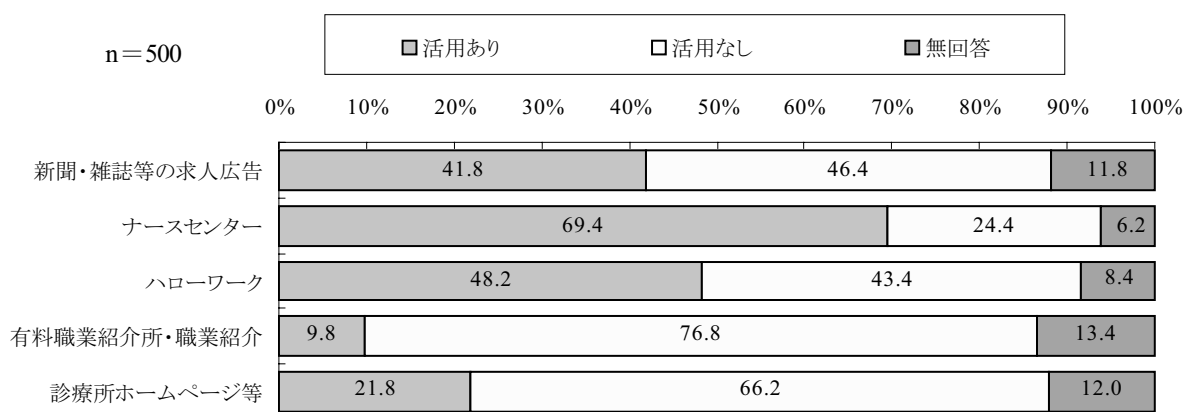
問38 もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか



「もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか」の問いに、全体では「活用したい」が53.0%、「わからない」が30.8%と回答している。

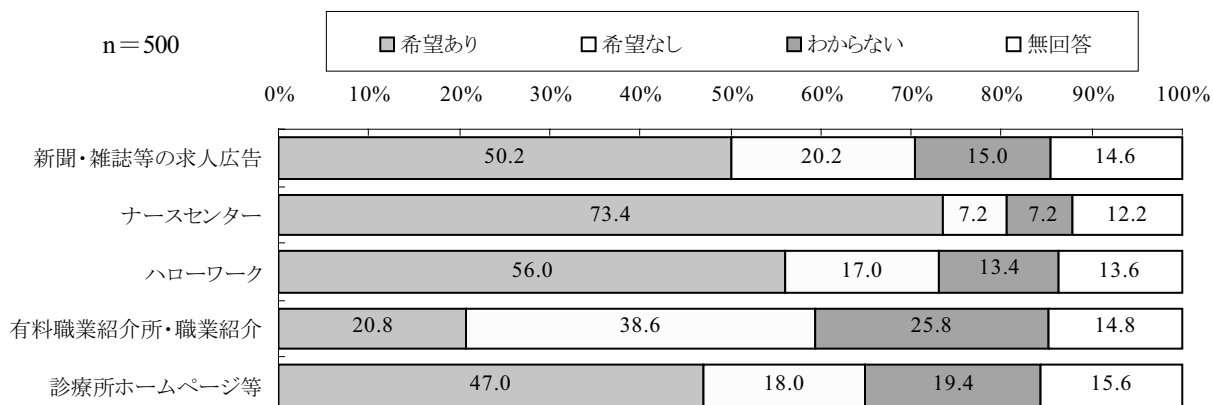
### 2. 求職活動手段

問39 活用経験



「活用経験」の問いに、「活用あり」では「ナースセンター」69.4%、「ハローワーク」48.2%、「新聞・雑誌等の求人広告」41.8%、「診療所ホームページ等」21.8%、「有料職業紹介所・職業紹介」9.8%と回答している。

問39 活用希望



「活用希望」の問いに、「希望あり」では「ナースセンター」73.4%、「ハローワーク」56.0%、「新聞・雑誌等の求人広告」50.2%、「診療所ホームページ等」47.0%、「有料職業紹介所・職業紹介」20.8%と回答している。

## XI 1年以内の就業希望者の就業条件について

### 1. 分娩介助件数、通算経験年数、離職期間、退職前職場施設

#### 問10 助産師になってから現在までの総分娩介助件数

	合計	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
全体 (n=500)	100.0%	8.4	4.2	8.2	19.8	26.6	13.4	10.8	8.6	396.2件

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
全体 (n=124)	100.0%	5.6	4.0	5.6	23.4	30.6	14.5	10.5	5.6	328.5件

分娩介助件数の平均値は、全体と比べると診療所での就業を1年以内に希望する者のほうが少ないが、分娩介助件数の区分で見ると100件未満の各区分では全体よりも割合は低く、100件以上～1000件未満の区分では全体よりその割合が高い。

#### 問13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

	合計	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均経験年数
全体 (n=500)	100.0%	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8	8.8年

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均経験年数
全体 (n=124)	100.0%	1.6	6.5	4.0	12.1	8.9	34.7	24.2	8.1	0.0	8.5年

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との通算経験年数をみると、3年未満の割合は全体のほうが高い。平均経験年数で見ると、就業を1年以内に希望する者のほうが短い。

#### 問15 前回の職場を退職してからの離職期間はどれくらいですか

問14 現在離職中ですか：はい

	合計	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
全体 (n=272)	100.0%	31.6	22.1	14.7	15.1	7.7	7.0	1.8	4.6年

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
全体 (n=106)	100.0%	39.6	23.6	14.2	10.4	7.5	3.8	0.9	3.7年

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との離職期間をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者の方が離職期間が短い。

#### 問16 退職前に働いていた職場はどのような施設ですか

問14 現在離職中ですか：はい

	合計	病院	診療所	助産所	行政機関	看護教育機関	その他	無回答
全体 (n=272)	100.0%	73.5	11.0	1.8	3.3	5.9	2.9	1.5

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	病院	診療所	助産所	行政機関	看護教育機関	その他	無回答
全体 (n=106)	100.0%	76.4	12.3	2.8	1.9	2.8	3.8	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との退職前の職場をみると、病院で働いていた人の就業希望者が最も多く、次いで診療所という結果は変わりはない。

## 2. 退職理由

### 問 17 前回の職場を退職した理由は何ですか（複数回答）

問 14 現在離職中ですか：はい

(%)

退職理由	n=272	(別掲) 就業意向： 是非働きたい・選択肢として考えたい n=106※
結婚	22.8	21.7
出産・育児	23.9	23.6
家族の健康・介護	9.2	7.5
自分の健康	18.8	17.0
定年	4.4	0.9
転居	13.2	16.0
進学	3.7	3.8
留学	0.4	0.0
夫の転勤	16.9	21.7
給与が安い	3.3	2.8
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	5.1	8.5
雇用形態への不満	5.9	7.5
勤務時間が長い・残業が多い	14.3	15.1
休暇が取れない	9.6	10.4
夜勤負担が大きい	13.2	14.2
通勤時間がかかる	5.1	3.8
業務負担が大きい	12.9	12.3
同僚との関係が悪い	3.7	5.7
上司や雇用者との関係が悪い	5.9	5.7
分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない	3.3	2.8
経営理念（看護理念）や方針に不満	7.7	8.5
自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満	7.0	8.5
仕事への興味ややりがいを持ってない	3.3	2.8
自分の適性への不安	5.5	1.9
技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない	3.3	1.9
責任の重さや医療事故への不安	13.6	12.3
他の職場への興味	4.0	3.8
医療のIT化についていけない	1.1	0.9
その他	14.0	11.3
無回答	0.7	0.0

※離職者のなかでの、就業意向のある者

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との退職理由をみると、「出産・育児」「結婚」「夫の転勤」「自分の健康」の順となっており、全体と比べてほぼ同じ傾向にある。

## 3. 希望する勤務形態、勤務日数、勤務時間、勤務体制

### 勤務形態

	合計	常勤	非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	無回答
全体 (n=296)	100.0%	31.4	68.2	0.3

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	常勤	非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	無回答
全体 (n=124)	100.0%	37.1	62.9	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務形態をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は常勤希望の割合が高い。

### 勤務日数

	合計	週に5日程度	週3~4日程度	週1~2日程度	その他	無回答
全体 (n=296)	100.0%	39.9	47.3	10.5	1.7	0.7

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	週に5日程度	週3~4日程度	週1~2日程度	その他	無回答
全体 (n=124)	100.0%	49.2	43.5	5.6	1.6	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務日数をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は、週に5日程度働ける割合が高い。

## 勤務時間

	合計	7～8時間	5～6時間	3～4時間	その他	無回答
全体 (n=296)	100.0%	44.6	39.5	14.9	0.3	0.7

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	7～8時間	5～6時間	3～4時間	その他	無回答
全体 (n=124)	100.0%	56.5	31.5	11.3	0.8	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務時間をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は1日7～8時間を希望する割合が最も高く、全体と比較してもその割合が高い。

## 勤務体制

	合計	日勤のみ	月1～2回程度の夜勤なら可能	月3～5回程度の夜勤なら可能	月6～8回程度の夜勤なら可能	月9回以上の夜勤でも可能	夜勤のみでも可能	オンコールなら可能	その他	無回答
全体 (n=296)	100.0%	64.2	15.2	10.8	3.4	1.0	2.4	0.3	1.4	1.4

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

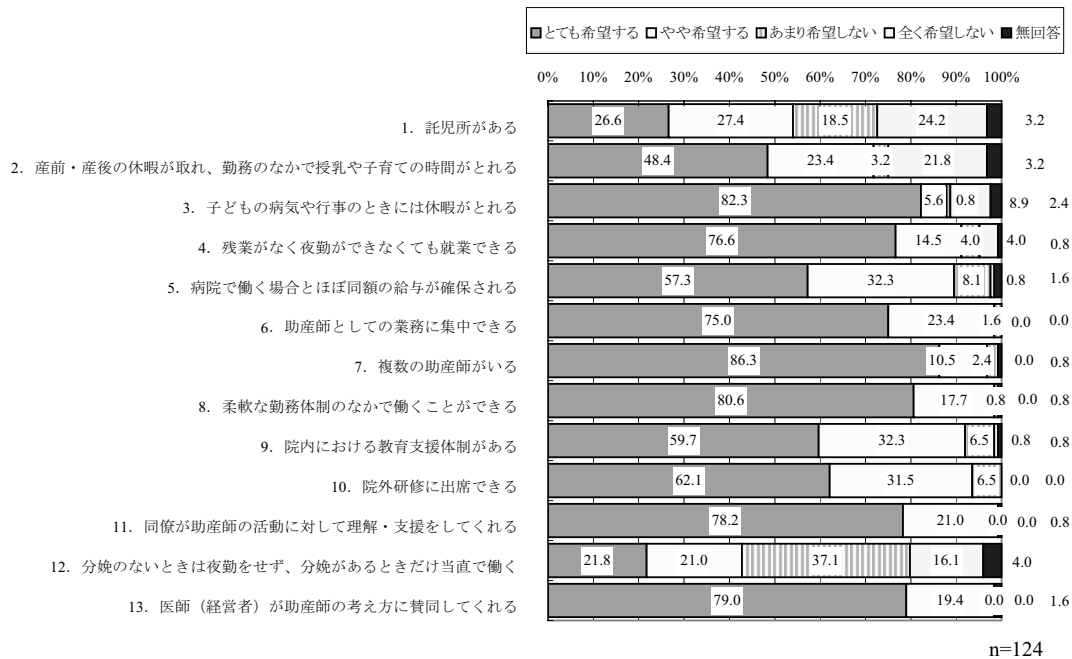
	合計	日勤のみ	月1～2回程度の夜勤なら可能	月3～5回程度の夜勤なら可能	月6～8回程度の夜勤なら可能	月9回以上の夜勤でも可能	夜勤のみでも可能	オンコールなら可能	その他	無回答
全体 (n=124)	100.0%	62.1	16.9	13.7	4.0	0.8	1.6	0.0	0.0	0.8

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務体制をみると、就業を1年以内に希望する者のほうが夜勤可能な割合が高く、概ね可能な日数も長い。

## 4. 希望条件

### 問33 産科診療所に就業する際、希望する条件

就労希望時期（すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい）



全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との希望する条件をみると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

## 5. 研修参加意向と内容

### 問37 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか

	合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全体 (n=500)	100.0%	81.4	3.6	10.4	4.6

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全体 (n=124)	100.0%	95.2	0.8	3.2	0.8

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との研修参加意向をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は研修参加意向が高く、95%以上が希望している。

### 研修内容

(%)

	n=407	(別掲) 就労希望時期： すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい n=118※
分娩介助等の実技演習	49.4	55.1
最近の産科管理	69.5	73.7
母乳育児管理	68.8	68.6
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	74.6
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	47.5
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	44.9
助産記録のあり方と実際	31.2	37.3
産科救急の対処	67.6	74.6
アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて	61.2	62.7
産科の医療安全と事故防止	52.1	60.2
子育て支援と虐待防止	44.0	44.1
コミュニケーションスキル	28.5	31.4
助産師のキャリア開発	38.1	39.0
新生児のケアと実際	50.4	49.2
その他	6.9	6.8
無回答	0.5	0.0

※研修意向のある者のみ

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との希望する研修内容をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は、どの研修内容においても概ね受講希望の割合が高い。

## 6. 求職活動手段

		合計	活用あり	活用なし	無回答
新聞・雑誌等の求人広告	全体 (n=500)	100.0%	41.8	46.4	11.8
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	56.5	36.3	7.3
ナースセンター (e-ナースセンターも含む)	全体 (n=500)	100.0%	69.4	24.4	6.2
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	83.1	15.3	1.6
ハローワーク	全体 (n=500)	100.0%	48.2	43.4	8.4
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	58.1	37.9	4.0
有料職業紹介所・職業紹介サイト (派遣も含む)	全体 (n=500)	100.0%	9.8	76.8	13.4
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	9.7	78.2	12.1
診療所ホームページ等による求人に関するページ	全体 (n=500)	100.0%	21.8	66.2	12.0
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	29.0	61.3	9.7
知人・友人等の紹介	全体 (n=500)	100.0%	44.6	45.4	10.0
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	48.4	45.2	6.5

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との求職活動手段をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は、概ね求職活動に様々な媒体を活用した割合が高い。特に、「新聞・雑誌等の求人広告」「ナースセンター」「ハローワーク」の利用率が高い。



問39 活用希望

		合計	希望あり	希望なし	わからない	無回答
新聞・雑誌等の求人広告	全体 (n=500)	100.0%	50.2	20.2	15.0	14.6
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	62.1	11.3	13.7	12.9
ナースセンター(e-ナースセンターも含む)	全体 (n=500)	100.0%	73.4	7.2	7.2	12.2
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	82.3	0.8	4.0	12.9
ハローワーク	全体 (n=500)	100.0%	56.0	17.0	13.4	13.6
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	64.5	9.7	12.1	13.7
有料職業紹介所・職業紹介サイト(派遣も含む)	全体 (n=500)	100.0%	20.8	38.6	25.8	14.8
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	25.8	33.9	26.6	13.7
診療所ホームページ等による求人に関するページ	全体 (n=500)	100.0%	47.0	18.0	19.4	15.6
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	56.5	7.3	21.0	15.3
知人・友人等の紹介	全体 (n=500)	100.0%	59.6	12.6	14.8	13.0
	(別掲) 就労希望時期: すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	71.0	6.5	12.9	9.7

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者で就職活動における媒体の活用希望状況をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者はすべての媒体において活用の希望が高い。

## ■調査結果総括

### 1. 調査対象者の背景

調査対象者の年齢は30～40代が63.2%で、平均年齢は41.6歳である。全体の62.6%に子供がいて、6歳以下の子どもを持つ者はそのうち39.7%である。昼間や夜間に12歳以下の子どもの世話をしてくれる家族や保育者等が「いない」と回答し、産科診療所で助産師として就業していない者98人のうち、80人(80.6%)が、産科診療所で「是非働きたい」「選択肢として考えたい」と回答している。このことから、子どもの世話をしてくれる家族や保育者等がいない者であっても、産科診療所への就業を希望している者が多いといえる。

経済状況を見ると、収入源は「自分」と回答した者が119人(23.8%)である。また、「自分」と回答しなかった者のうち「夫や家族」「自分と夫や家族」と回答した者は375人(75.0%)で、そのうち「自分が働かなくても経済的に余裕がある」とした者が114人(30.4%)、「自分が働かないと経済的にやっていけない」とした者は55人(14.7%)であった。収入源が「自分」以外で、産科診療所で助産師として就業していない者の就業意向をみると、「自分が働かなくても経済的に余裕がある」と回答した者では、93人中の55.9%が、「自分が働かないと経済的にやっていけない」と回答した者では37人中の78.4%が、「是非働きたい」「選択肢として考えたい」と回答している。つまり、経済状況に関わらず、半数以上は産科診療所への就業意向を持っているといえる。

助産師として働いた通算経験年数は、「5～10年」とする者が31.8%で最も多く、次いで「10～20年」が22.0%であり、平均では8.8年である。過去の総分娩介助件数では「100件以上」とする者が7割を超え、平均396.2件である。通算経験年数と総分娩介助件数の関係を見ると、経験年数が長くなるにつれて総分娩介助件数が増える結果となっている。

就業状況については、現在就業中の者が45.4%、離職中の者が54.4%で離職中の者の離職期間は、「1年未満」とする者が31.6%、「1～3年未満」とする者が22.1%と、比較的直近の離職である。また、助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いたことがある者は60.2%で、転職経験者は74.8%、1人平均2.7回である。助産師としての経験年数をみると10年以上ある者は3割を超え、5年以上では6割を超える。助産師以外の職種での就労経験や転職経験者も多い。また、離職期間が短い者が多いことから、即戦力となり得る人材が多いのではないかということがいえる。

現在離職中の助産師が前回の職場を退職した理由をみると、全体では「結婚」「出産」「夫の転勤」といったライフステージの変化、「自分の健康」といった要因や、「勤務時間が長い・残業が多い」「責任の重さや医療事故への不安」など労働条件や職場環境に起因するものが多い。しかし、退職前職場が「診療所」であった者の退職理由は、全体と比較すると「結婚」「出産・育児」「転居」等の理由とする割合が低い。反対に「自分の健康」「経営理念(看護理念)や方針に不満」「給与が安い」「施設の閉鎖等による雇用者側の都合」「業務負担が大きい」といった割合が高く、なかでも「経営理念(看護理念)や方針に不満」と回答した割合が全体の回答と比べて15.6ポイント高い。つまり、診療所で働いていた者では、職場環境や労働条件のミスマッチによって退職した割合が高いということがいえる。

また、診療所での就業を1年以内に希望する者の前回の職場の退職理由をみると「出産・育児」「結婚」「夫の転勤」「自分の健康」が多く、ライフイベントによる退職者が多く、診療所への就業意向のある者が一定数存在しているということがいえる。

産科診療所の存在については、「車で30分以内のところに分娩を取り扱っている産科診療所がある」と全体の86.2%が回答していることから、居住地近くに産科診療所がある者が多いといえる。

### 2. 産科診療所への就業意向に関する実態

潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師358人のうち、産科診療所で働きたいとする者は、「是非働きたい」8.9%、「選択肢として考えたい」56.4%をあわせて65.3%であった。また、就業意向のある者の就業希望時期は1年以内を希望する者が46.6%であることから、潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師は何らかの条件が整えば産科診療所への就業が可能であり、できるだけ早く就労したいとの意向を持つ助産師が相当数いることがわかった。

#### 1) 就業意向がある助産師の望む就業条件

潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師358人のうち、産科診療所に是非働きたい・選択肢として考えたいとする助産師は65.3%であった。これらの就業意向がある助産師の望む就業条件をみると、雇用形態は7割

近くが「非常勤」を希望している。勤務日数は週3～4日、1日に7～8時間が最も多い。勤務体系については64%が「日勤のみ」を希望しているが、「月1～2回程度の夜勤なら可能」が15.2%、「月3～5回程度の夜勤なら可能」が10.8%である。

希望給与額をみると月給（税込み支給額）は「30～35」万円を希望する者が20.6%と最も多く、次いで「25～30万円」が16.9%である。希望給与額の平均は、月給約269,000円、時給約1,700円、日給約13,300円、夜勤当直約22,500円、分娩オンコール1件につき約24,200円である。

このほかに希望する条件としては、「複数の助産師がいる」「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」「同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる」「子どもの病気や行事のときには休暇がとれる」「残業がなく夜勤ができなくても就業できる」「助産師としての業務に集中できる」を望む割合が高い。職場に相談する助産師がいることは診療所で働く助産師にとって心強く、夜勤が労働負担にならない点からみても助産師の複数配置が望まれる。

子育て中の助産師が多く、週に3～4日、1日に7～8時間くらいの働き方を望んでいる助産師が多いことから、常勤としてのフルタイムでの働き方だけでなく、働ける時間帯を調整しながら複数の助産師でシフトを組むなど、柔軟な勤務体制の整備が必要である。また給与は経験年数等が考慮され子育てが終われば常勤として働き甲斐があると感じられるような処遇も必要である。労働環境としては医師や同僚との相互理解や支援があり、産科診療所ならではの助産業務が提供でき、職務満足感が得られるような環境が望まれる。

## 2) 就業意向がある助産師の求職活動

求職活動の手段は、「ナースセンター」「ハローワーク」「新聞・雑誌等の求人広告」の順で多いがキャリアカウンセラーの活用については53.0%の助産師が希望している。

産科診療所への助産師就業のためには、常勤でフルタイムとしての働き方以外にも、短時間勤務ができるような働き方や、日勤だけの働き方などが求められるため、よりきめ細やかな就業相談や診療所との調整が望まれる。そのためにはキャリアカウンセラーといった就職に対する専門家の活用が期待される。また、産科診療所において助産師の採用が積極的に行われるためには、助産師がいることで「安全で安心なお産」や「充実した妊産婦ケアの提供」にもつながることを産科診療所の医師に周知してもらう必要がある。そのためには、キャリアカウンセラーが介入して、産科診療所や助産師に対して啓蒙活動を行っていくことが重要である。

求職活動の際の産科診療所のホームページ利用率は21.8%であるが、活用希望者は47.0%である。診療所のホームページのなかで、施設の理念やそこで働く職員の様子、実施しているケアや求人情報などがわかり、求人条件の問合せ等が出来れば、助産師にとってより積極的な求職活動が展開できると期待される。そのためには、産科診療所において、職場の状況がわかるようなホームページの充実が望まれる。また、一度に複数の職場が検索できるような、助産師の産科診療所就業のための求人・求職専用サイトなどの構築も検討する必要がある。

## 3. 産科診療所で期待される助産師の能力と必要な研修

産科診療所で期待される助産師の能力のうち、「育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）ができる」、「乳房管理ができる」、「分娩監視装置の装着と判読ができる」、「正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる」、「妊産褥婦・新生児の状態を医師へ的確に伝えることができる」、「外診や内診ができる」、「妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる」、「新生児の観察により正常と異常の判断ができる」、「正常新生児の健診と保健指導ができる」などは60%以上が「とてもそう思う」と回答している。

希望する研修内容は、「最近の産科管理」「母乳育児管理」「超音波分娩監視装置など最近の医療」「産科救急の対処」「アクティブバース、フリースタイルなどのスタイルについて」といった内容を6割以上が希望している。これらの研修は「乳房管理ができる」、「分娩監視装置の装着と判読ができる」などの「期待される助産師の能力」と一致している。

8割以上の助産師は研修への参加を希望しており、助産師としての経験年数5年未満の者、就業中の者、離職期間が短い者、診療所への就業意向がある者は研修への参加意向が高い。特に1年以内に診療所へ就業意向をもつ者は、研修参加意向が95%を超えている。分娩介助等の実技演習は経験5年未満の者で希望する割合が高い。

経験年数が長くなるにつれて、助産師としての経験業務が増える傾向にあるが、「退院後の訪問指導」「ハイリスク新生児のケア（NICU）」「不妊相談」「中高年相談」については、分娩介助件数が1,000件以上の者でも、経験の割合が少ない。経験したことのない業務に関する研修や、要望の高い内容を研修科目にとり入れ、ニーズにあ

った研修を実施することが重要である。また、離職後できるだけ早期に研修を受けられることは就業意欲を高め学習効果も高いことから研修の提供方法が課題となる。

#### 4. 産科診療所に対するイメージ

産科診療所のイメージに関して、「責任が重い」、「休暇がとりにくい」、「医師（経営者）との人間関係が難しい」、「夜勤が多い」などは、「とてもそう思う」と回答した割合が高く、労働条件や人間関係においてネガティブなイメージをもつ傾向がみられる。退職前の職場が診療所であった者のイメージは、「先輩・同僚からの指導が受けられない」「研修等に参加できない」「カンファレンスの場がもてない」「分娩時のオンコール体制がある」「医師（経営者）との人間関係が難しい」などを「とてもそう思う」とあげる割合が高い。

しかし一方で、ポジティブなイメージを肯定（とてもそう思う・まあそう思う）する割合が5割以上だったものには、「外来から入退院まで一連のケアが継続して行える」「助産技術を習得し自立して助産業務を行うことができる」「妊産婦の生活に応じたケアができる」「分娩介助等の業務に主体的に取り組める」「母乳育児の支援が充実する」「助産師としてのスキルが磨かれる」などがある。

「助産師確保対策に関する調査研究報告書」\*<sup>1</sup>によると、診療所で働いている助産師は、診療所で働くメリットとして「外来、分娩、産褥までトータルなケアが実施できる」「正常分娩に主体的に関われる」「個を尊重したケアができる」などをあげており、利用者のニーズに応えた出産を実施し、そこにやりがいを感じているという報告もある。

産科診療所で就業したい助産師がいても、イメージがネガティブであれば就業には結びつきにくい。産科診療所のイメージをよりよく変えていくような方策の検討とともにポジティブなイメージの情報も広く提供される必要がある。

#### 5. 就業支援のあり方

潜在・退職助産師就業意向調査結果にもとづき、産科診療所へ助産師の就業が促進されるための支援策について検討した。

- 1) 産科診療所の職場環境の改善
  - ①医師（経営者）との信頼関係の形成
  - ②助産師の能力を発揮して自立して業務を遂行できる体制
  - ③同僚や他職種との指導・協力体制
  - ④カンファレンス等の時間の確保
  - ⑤研修機会の確保
- 2) 産科診療所の労働条件の改善
  - ①常勤のみでなく、パートや嘱託など多様な就業形態を工夫
  - ②夜勤のみ、オンコールのみ、夜勤回数の制限等多様な勤務体制の工夫
  - ③育児休業の取得を可能にする
  - ④育児中の多様な出来事（病気や行事等）に休暇が取れる
  - ⑤託児所を整備する
  - ⑥病院との給与格差がない
  - ⑦助産師を複数採用する
- 3) 潜在・退職助産師の研修
  - ①最新の産科医療・管理・助産技術、産科救急処置、産科の医療安全と事故防止など現実の水準に対応した知識・技術の提供
  - ②受講生の学習ニーズの査定のうえで補強が必要なプログラムを提供
  - ③研修開催の広報を強化し、子育て後や離職後はできるだけ早い時期に研修を受けられるようにする
- 4) ナースセンターにおける事業
  - (1) 潜在・退職助産師の確保

\*<sup>1</sup> 加藤尚美：助産師確保対策に関する調査研究報告書，平成16年度厚生労働省科学研究費補助金，2005.3

相談員は、e-ナースセンター（NCCS）に登録される求人・求職者のみでなく、地域の助産師の動向に関連する団体や施設、個人などのインフォーマル情報も積極的に収集し、人脈の拡大を促進し、潜在助産師の所在を把握し、再就業に資する情報を提供する。

(2) 情報の周知

県行政ホームページ、県協会ホームページ、地域の各種新聞等の広報媒体を通して、産科診療所における助産師の必要性や求人広告を掲載する。

(3) 求人支援

産科診療所の求人施設に対して、職場環境や労働条件の改善、助産師の就業意向等について情報を提供し、人材確保を支援する。

(4) 求職相談

潜在・退職助産師の保有能力、希望条件に関する相談、就業の意思決定、教育や訓練の必要性について面談し、就業先の選択とマッチングに向けた支援をする。